creative commons

COMMONS DEED

저작자표시-변경금지 2.0 대한민국

이용자는 아래의 조건을 따르는 경우에 한하여 자유롭게

- 이 저작물을 복제, 배포, 전송, 전시, 공연 및 방송할 수 있습니다.
- 이 저작물을 영리 목적으로 이용할 수 있습니다.

다음과 같은 조건을 따라야 합니다:

저작자표시. 귀하는 원저작자를 표시하여야 합니다.

변경금지. 귀하는 이 저작물을 개작, 변형 또는 가공할 수 없습니다.

- 귀하는, 이 저작물의 재이용이나 배포의 경우, 이 저작물에 적용된 이용허락조건을 명확하게 나타내어야 합니다.
- 저작권자로부터 별도의 허가를 받으면 이러한 조건들은 적용되지 않습니다.

저작권법에 따른 이용자의 권리는 위의 내용에 의하여 영향을 받지 않습니다.

이것은 이용허락규약(Legal Code)을 이해하기 쉽게 요약한 것입니다.

Disclaimer

dCollection

安 平 鎬　教授指導

碩士學位　請求論文

高校の日本語教科書の
格助詞用法に関する分析

― 2009改訂教育課程を中心に ―

2013

誠信女子大學校 大學院

日語日文學科

金 根 慧

高校の日本語教科書の
格助詞用法に関する分析

― 2009改訂教育課程を中心に ―

安　平　鎬 教授指導

이 論文을 碩士學位論文으로 提出함

2013年 5月

誠信女子大學校 大學院
日語日文學科
金 根 慧

認 准 書

金根慧의 碩士学位論文으로 認准함

審査委員 金 沅 基 ㊞

審査委員 金 玉 任 ㊞

審査委員 安 平 鎬 ㊞

誠信女子大學校 大學院

論 文 概 要

2009改訂教育課程이 올해 中學校 1학년을 시작으로 2014년에는 高等學校 1학년을 대상으로 漸次的으로 시행될 예정이다. 2007改訂教育課程에서 이미 전면적으로 改編되었기 때문에 큰 틀에 있어서는 변화는 없지만, 單位學校에 自律性을 부여하고 進路教育이 강화되었으며 體驗活動을 더욱 重視한다는 맥락이 같으며 學習者가 보다 主體的인 존재로서 能動的으로 外國語學習에 임해야 하고, 教育課程을 보다 구체적으로 제시하여 第2外國語教育의 方向을 확실하게 提示하고 있다는 점에서 약간의 변화가 있다. 또한 文化學習을 지속적으로 강조하고 있으며 日本의 最新文化를 학생들에게 그대로 전달하려고 하는 점이 엿보인다.

本硏究에서는 이러한 2009改訂教育課程의 第2外國語教育 중에서도 日本語教育, 그 중에서도 文法部分을 집중적으로 分析하고자 한다. 지금까지의 外國語教育에서의 文法은 커뮤니케이션 능력의 向上을 위해 크게 중요시되지 않았다. 日本語로 意思疏通을 하는데 있어서 文法事項의 지적보다는 意味傳達에 의의를 두고 있기 때문에 意思疏通 기본표현을 익혀나가며 그 文型 속에서 자연스럽게 文法을 습득하도록 했다. 그런데 學校現場에서 학생들을 지도하다보면 文法의 不充分한 학습이 오히려 자연스러운 意思疏通의 방해요인으로 작용하는 경우도 있다.

2009改訂教育課程에서는 文法學習의 내용이 보강이 되었으며, 학습범위에 '基本語彙表'의 文法事項을 추가하고, 日本語教育은 現代日本語文法에 의한다고 하며 한정지었다. 특히, 格助詞 學習은 日本語文法에서도 가장 먼저 이루어지는 내용이다. 格助詞는 각 문장의 名詞가 敍述語에 대해 어떠한 관계를 맺고 있는지를 나타내는 文法要素로서 하나의 완성된 문장을 만들어

주는 매우 중요한 역할을 하고 있다. 日本語 文章에서 여러 要素들이 나열되어 있어도 格助詞가 적절하게 들어가지 않으면 그 文章은 完成되었다고 할 수 없다. 알맞은 格助詞가 각 要素들을 이어주는 역할을 해주어야 비로소 文章이 完成되고 말하고자 하는 의미가 충분히 전달되어진다.

그러나 현재 日本語 學習者들은 格助詞를 배우기는 하지만, 現行의 敎育課程의 특성상 특별히 강조되어 학습이 이루어지기는 어려운 상황이기 때문에 충분한 학습이 되기 어렵다. 그래서 格助詞를 넣지 않고 말하거나 韓國語와 의미가 비슷한 格助詞로 잘못 말하는 경우가 발생하여 매우 부자연스러운 日本語를 구사하게 되고 오히려 커뮤니케이션 능력을 沮害하게 된다. 또한 지금까지 2009改訂敎育課程의 日本語敎育이나 2007改訂敎育課程의 日本語敎育에 대한 先行硏究는 '文化'에 관련한 연구뿐이다. 또한 각 敎育課程마다 文法敎育 및 格助詞에 관한 先行硏究도 존재하지 않는다. 이러한 점에서도 本硏究는 새로운 敎育課程의 文法을 다루었다는 것에 意義가 있다.

本硏究에서는 위와 같은 내용을 바탕으로 현재 출판되어 있는 2007改訂敎育課程의 高等學校 日本語 6種 敎科書의 9개 格助詞(が · を · に · へ · と · で · から · より · まで)를 추출하여 각 意味用法別로 분류한다. 6種 敎科書에서 9개 格助詞의 提示順序나 指導方法, 練習問題 등을 충분히 분석한 다음, 2014년부터 새롭게 改訂되어 出版될 2009改訂 高等學校 日本語敎科書에서 수정보완 되었으면 하는 格助詞 敎育을 현재 발표된 2009改訂 第2外國語敎育課程을 바탕으로 제안해보고자 하는 것이 本硏究의 目的이다.

분석의 결과로서 2007改訂 高等學校 日本語敎科書의 경우, 철저하게 커뮤니케이션 능력을 향상시키기 위한 내용으로 구성되어 있었으며, 9개의 格助詞(が · を · に · へ · と · で · から · より · まで)는 각 敎科書마다 모두 提示되어 있지만, 좁은 범위의 意味用法으로 한정되어 있었다. 특히, 한 번도 提示되지 않은 格助詞의 意味用法도 존재했다. 또한 提示順序에 있어서는 특별히 정해진 순서는 없었으며, 敎科書 단원의 내용에 필요한 文章 속에서

提示된 格助詞를 단순히 整理하는 정도이거나 매우 간단한 練習問題를 提示하는 정도로, 학생들에게 충분한 學習이 이루어지기에는 부족했다. 이와 같은 현행의 格助詞教育을 2009改訂教育課程을 바탕으로 提案해 본다면, 누락된 格助詞는 비슷한 意味用法이 提示될 때 함께 提示하고, 練習問題를 만들 때 格助詞까지 충분한 確認學習이 이루어 질 수 있도록 문제를 새롭게 제작하는 것 등이 있을 것이다.

以上과 같이, 本稿에서 高等學校 日本語教科書의 格助詞를 2009改訂教育課程을 중심으로 분석하고 새로운 格助詞 文法教育을 提案해 보았다. 이러한 새롭게 提示한 格助詞教育을 중심으로 한 文法教育이 日本語 커뮤니케이션을 沮害하는 것이 아니라, 보다 自然스럽고 流暢한 日本語 커뮤니케이션 능력 향상을 기대 할 수 있을 것이라는 結論을 얻을 수 있었다.

目　　次

論文概要 …… i

Ⅰ．序論

1. 研究の目的 …… 2

2. 研究の方法と範囲 …… 3

3. 先行研究 …… 4

Ⅱ．本論

1. 2009改訂教育課程の日本語「文法」の分析 …… 8

1.1　2009改訂教育課程の始め …… 8

1.2　2009改訂教育課程の「文法」 …… 10

2. 「文法」としての格助詞 …… 12

2.1　格助詞の定義 …… 12

2.2　格助詞の機能 …… 14

2.3　9種類の格助詞の意味と用法 …… 15

2.3.1 「ガ格」 …… 15

2.3.2 「ヲ格」 …… 15

2.3.3 「ニ格」 …… 16

2.3.4 「ヘ格」 …… 17

2.3.5 「ト格」 …… 17

2.3.6 「デ格」 …… 18

2.3.7 「カラ格」 …… 19

2.3.8 「ヨリ格」 …… 19

2.3.9 「マデ格」 …… 20
3. 高校の日本語教科書の格助詞分析 …… 21
3.1 A教科書 …… 22
3.1.1 提示された格助詞の用法 …… 22
3.1.2 格助詞の提示順序 …… 26
3.1.3 格助詞の指導方法 …… 26
3. 2 B教科書 …… 27
3.2.1 提示された格助詞の用法 …… 27
3.2.2 格助詞の提示順序 …… 32
3.2.3 格助詞の指導方法 …… 32
3. 3 C教科書 …… 33
3.3.1 提示された格助詞の用法 …… 33
3.3.2 格助詞の提示順序 …… 37
3.3.3 格助詞の指導方法 …… 37
3. 4 D教科書 …… 39
3.4.1 提示された格助詞の用法 …… 39
3.4.2 格助詞の提示順序 …… 42
3.4.3 格助詞の指導方法 …… 42
3. 5 E教科書 …… 44
3.5.1 提示された格助詞の用法 …… 44
3.5.2 格助詞の提示順序 …… 47
3.5.3 格助詞の指導方法 …… 48
3. 6 F教科書 …… 49
3.6.1 提示された格助詞の用法 …… 49
3.6.2 格助詞の提示順序 …… 52
3.6.3 格助詞の指導方法 …… 53

4. 教科書の分析結果 ……54
4.1 分析結果 ……54
4.2 格助詞教育の提言 ……57

Ⅲ. 結論 ……62

参考文献 ……64
ABSTRACT ……66
附録 ……70

表　目　次

表1. 格助詞「ガ」の意味と用法 …… 15
表2. 格助詞「ヲ」の意味と用法 …… 16
表3. 格助詞「ニ」の意味と用法 …… 17
表4. 格助詞「ヘ」の意味と用法 …… 17
表5. 格助詞「ト」の意味と用法 …… 18
表6. 格助詞「デ」の意味と用法 …… 19
表7. 格助詞「カラ」の意味と用法 …… 19
表8. 格助詞「ヨリ」の意味と用法 …… 20
表9. 格助詞「マデ」の意味と用法 …… 20
表10. 「2009改訂日本語教育課程」の「基本語彙表」の助詞 …… 21
表11. 「2007改正教育課程」の高校の『日本語Ⅰ』 …… 22
表12. 格助詞の意味用法の分析 ： A教科書 …… 26
表13. 格助詞の指導方法 ： A教科書 …… 27
表14. 格助詞の意味用法の分析 ： B教科書 …… 31
表15. 格助詞の指導方法 ： B教科書 …… 33
表16. 格助詞の意味用法の分析 ： C教科書 …… 37
表17. 格助詞の指導方法 ： C教科書 …… 38
表18. 格助詞の意味用法の分析 ： D教科書 …… 41
表19. 格助詞の指導方法 ： D教科書 …… 43
表20. 格助詞の意味用法の分析 ： E教科書 …… 47
表21. 格助詞の指導方法 ： E教科書 …… 48
表22. 格助詞の意味用法の分析 ： F教科書 …… 52
表23. 格助詞の指導方法 ： F教科書 …… 53
表24. 6種類の高校日本語教科書の格助詞整理 …… 55

Ⅰ．序　論

１． 研究の目的

2009年に新しく改訂された「2009改訂教育課程」は、2013年から既に中学校の一年生に適用されており、2014年からは高校の一年生の教育課程に適用されるという。「2009改訂教育課程」は現行の「2007改訂教育課程」の内容とほぼ同じであるが、若干の改訂が加えられている。具体的には、学校には一定の自律性を与えられ、学校がある程度独自の教育課程が計画できるようになっている。また、進路教育の導入と創意性を育成するための多様な体験を強調している。このように新しい「2009改訂教育課程」の導入が進められている現在、第2外国語教育、その中でも日本語教育の現状(特に、格助詞に関する教育)はどうなっているかについて考察するのが本論文の目的である。

現行の中等教育課程における日本語教育は「第7次教育課程」から現在まで主にコミュニケーション基本表現の文型を中心とした教育が強調されている。新しい「2009改訂教育課程」においてもコミュニケーション能力は強調しており、学生たちの積極的な態度を要求している。しかし、「2009改訂教育課程」の特色といえるのは、文法の教授・学習の方法の変化であろう。「2007改訂教育課程」までの文法教育はコミュニケーション基本表現だけに限定されていたのだが、「2009改訂教育課程」では文法教育の範囲がより広くなっていることに注目する必要がある。

教育現場で学生を教えている教師として感じていることは、現行の教育課程のおかげで学生たちのコミュニケーション能力の向上には確かに効果がある、という実感である。学生たちは正確な日本語ではないが、相手に伝えたい内容をある程度表現できる。しかし、文法的な面においては正しくない点が多いため、いつもややおかしい日本語になってしまいがちである。つまり、現行の教育課程においては、コミュニケーション能力の向上を第一の教育目標に掲げている。したがって、多少の文法的な間違いがあっても流暢性を妨げないように、正しく直すのを止揚しており、学生のコミュニケーションは文法的に正しい日本語になっていないというのが現状であろう。特に、文法教

育の中でも格助詞は早期に学習する文法要素である。格助詞は、文中の他の要素(項・argument)との関係を示すことで、文の意味を確定する重要な役割をする。しかし、学校現場では前述したような流暢性というコミュニケーション能力が強調されているために、学習者が「わたしの家族はちちとははとあにとわたしです」という文を「わたし　家族は　ちち、はは、あに、わたしです」と発話したり、「わたしはスキーが好きです」という文を「わたし　スキー　好きです」と発話したりしても、その場で言い直されたりはしないのである。

このように学習者が伝えたい内容はある程度表現できるが、文の中で重要な役割をする格助詞をよく抜けてしまってやや不自然な日本語になってしまう、という問題がある。

以下では、現在使われている「2007改訂教育課程」によって作成された高校の日本語教科書を用いて、格助詞が提示方法、どのような意味用法として使われているか、格助詞の指導方法などについて分析を行う。また「2007改訂教育課程」によって作成された高校の日本語教科書の内容を、新しく発表された「2009改訂教育課程」の第2外国語教育課程の内容と比較し、文法教育、その中でも格助詞の教育に関する改善案を提案しようとするのが本稿の目的である。

２．研究の方法と範囲

3節ではまず「2007改訂教育課程」及び「2009改訂教育課程」における日本語教育課程と日本語教育に関連する格助詞についての先行研究について検討する。それから、＜Ⅱ．　本論＞では「2009改訂教育課程」の全般的な内容とその中でも第２外国語教育課程について見通す。「2007改訂教育課程」と「2009改訂教育課程」の「文法教育」について比較する。その後、日本語文法においての格助詞の定義、特徴などを調べてから、9種類の格助詞（が・を・に・で・へ・と・から・より・まで）の用法を例文を通して調べる。以上の内容を通して、「2007改訂

教育課程」によって作成された高校の日本語教科書(6種)で提示された格助詞の意味用法、指導方法を分析してみる。最後には、2014年から適用される「2009改訂教育課程」によって作成される日本語教科書が進んでほしい方向について提案する。本論文は、将来、日本語の学習者がコミュニケーション能力の向上と共に、文法的にも正しい日本語を駆使できるようになるためにはどうすればいいか、という問題と関連した一つの具体的なケーススタディとして位置づけられる。

3．先行研究

先行研究を調べてみた結果、「2009改訂教育課程」では中学校の日本語教科書の文化内容の分析を目的とした論文を除いて、本稿の考察対象としている「2007改訂教育課程」と「2009改訂教育課程」の日本語文法(特に格助詞の使用)に関する研究は管見の限りまだ存在しない。ただ、韓国語と日本語は系列が膠着語としての共通点が多いため、格助詞も意味や使い方において似ている点が多い。また、似ているが微妙に違う点も多いので、誤用も多い。このような日韓両言語の格助詞の類似点・相違点に関する研究が活発に行われているように思われる。以下に紹介する内容は、「2007改訂教育課程」によって作成された高校の日本語教科書を対象とし、格助詞に関する誤用分析を行ったものである。

李種烈(2002)は韓国語と日本語の格助詞の意味と用法を比較して対応関係と誤用について分析した。「が」が述語の対象を表す時は韓国語の「을/를」に解釈されるので、韓国語母語話者が「が」の代わりに「を」に使ってしまう誤用、日本語では体言(名詞)と体言の間に「の」を入れるが韓国語では「의」を入れなくても非文法的な文にはならないため、韓国語母語話者が「の」を省略してしまう誤用(例えば、＜私＋友だち＞→＜私友だち＞のような誤用)、「～に乗る/会う/似る」は韓国語では「～을/를 타다/만나다/닮다」になるので、「を」を使ってしまう誤用などについて例を挙げている。結論は格助詞の誤用を防止するためには、助詞の一つ一

つの意味よりは文型を覚えさせ、前後の言葉と関連して理解するように教育する必要がある。1)

金成姫(2003)は高校生と大学生を対象に格助詞誤用に関するアンケート調査を行っている。誤用率が高かったのは、「一枚」を「一枚に」のように使ってしまう誤用の例、具体的ではない時間を表す名詞の後に「に」を付けない誤用の例、「～に分ける」を「～を/で分ける」のように使ってしまう誤用の例である。結論的には、誤用を防止して日本語らしい日本語になるためには、教師が学習者が間違えやすい誤用を記録して集めること、集められた誤用に関連する格助詞の例は文全体を覚えさせること、学習者も自ら関心を持って誤用例文を集めて分析することなどを述べている。2)

林美璘(2007)は橋本進吉の格助詞の分類によって「が・の・を・に・で・へ・と・から・より」の9つの格助詞を分析し、12種類の第7次教育過程教科書の「読みましょう」に出た格助詞の使用頻度を調べた。調査結果、「の」が一番多く使われて、「より」の頻度数は一番低かったと報告している。なお9つの格助詞を意味別にも使用の頻度を数えて、一番よく使われている意味用法についても分析した。3)

以上のように格助詞の誤用についての分析は多い。しかし、誤用の分析に止まっており、新しい教育方法などに関する具体的な提案が見られない。そのうえ、「2007改訂教育課程」と「2009改訂教育課程」における日本語文法教育に関する研究、特に格助詞に関する研究はまだ存在しない。

本稿は現行「2007改訂教育課程」によって作成された高校の日本語教科書を

---

1) 李種烈(2003) 「韓・日語 格助詞の対照研究」韓南大学校 教育大学院 修士学位論文
이종열(2003) 「한 · 일어 격조사의 대조연구」한남대학교 교육대학원 석사학위논문
2) 金成姫(2003) 「日本語助詞　誤用例に関する 考察：第7次教育過程日本語教科書の格助詞を中心に」韓国外国大学校 教育大学院 修士学位論文
김성희(2003) 「일본어 조사 오용예에 관한 고찰：제7차교육과정 일본어교과서에 나오는 격조사를 중심으로」 한국외국어대학교 교육대학원 석사학위논문
3) 林美璘(2007) 「第7次 高校『日本語Ⅰ』教科書の格助詞の分析」啓明大学校 修士学位論文
임미린 (2007)「제7차 고등학교 『일본어Ⅰ』교과서 격조사 분석」계명대학교 교육대학원 석사학위논문

「2009改訂教育課程」に新しく加えられた＜文法教育＞の観点から分析し、2014年から変る予定の「2009改訂教育課程」によって作成される高校の日本語教科書に必要な格助詞の教育方法について提案することを最終的な目標とする。

Ⅱ．本　論

1. 2009改訂教育課程の日本語「文法」の分析

1. 1　2009改訂教育課程の始め

2013年から「2009改訂教育課程」が小学校1～2年生、中学校1年生から適用されている。2009年12月23日に「未来型教育過程」という名前として教育科学技術部で改訂した教育課程として、学校の自立性と創意性を強める方向に改訂された。

改訂の背景は、世界化・国際化を越え、グローバルな創意人材の育成ができ、学習の量よりは質を大事に強調している。そして、速く変わっていく時代に相応しい教育課程の多様化を企てるためである。

「2009改訂教育課程」は以前の「2007改訂教育課程」の方向とは次のような違いがある。

(1) 総論

① 単位学校の教育課程の自立性の拡大

学年群[4]と教科群[5]に分け、各学期に学習できる科目数を決めて、少ない科目を集中的に学べる「集中履修制」を導入した。一学期に学習できる科目数を8個から11個の科目に減らし、学習者の負担も少なくして教科の特徴に合う教育ができるようにする。

また、「ブロックタイム制」もでき、密度のある授業ができる。更に、学校に教科の履修する時期と単位の数を決められる権限を与え、各学校の校長は自立的に20%の範囲以内で教科目の履修時間を調整できる。例えば、数学より英語の実力が足りないなら、数学の授業時間を1単位を減らして、英語の授業時間を1単位増やす。このような変化は教師にも充実な授業の準備ができ、十分な時間の授業を通して高い

---

4) 小学校は1~2年生・3~4年生・5~6年生に、中学校と高校は各一つの学年群で決め、集中履修制を通して科目数を減らす効果がある。

5) 教科の教育目的と学問研究方法の類似性、相互の連関性などを考慮して分けた群。

質の学習指導ができることである。

② 教科教室制の拡大

学校の環境も変わっている。各教科の学習ができる最適の教室で勉強する教科教室制がだんだん定着している。これは先進国の方式であり、学生が各教科の専用教室に移動して授業を受けるのである。教科に合う教材や教具がよく備えていて、教育の効率が高まるそうである。例えば、日本語の授業を受けるため、日本語の教室に学生が来るとしたら、学生は日本の歌が流れる教室に座り、日本の文化に関連する教具をいつでも接する機会が多くなり、自然に体験することができるだろう。

③ 進路に適合な教育課程の運営

学生の興味・進路に合う教育課程を提供し、中学校と高校では進路に関する科目を深層的に学習できるようにしている。

④ 多様な体験活動の強化

「創意的な体験活動」という授業時間ができ、教室の内だけで勉強する学生ではなく、教科の以外の実質的な体験活動を通して、人性的な面でも素晴らしい人材を育成しようとする。これは大学に入学するために重要な経歴にしている。

(2) 中学校

「2007改訂教育課程」では、選択科目として漢文・情報とコンピューター・環境・生活外国語・保険であったが、「2009改訂教育課程」では重視されている「進路職業」の教科も加えた。ここで、日本語が含まれる生活外国語をみると、以前は裁量活動に属したが、今回は選択科目として校長の権限に教育課程を調整できて選択率に変化があった。

(3) 高校

性格が類似な科目は「科目群」になり、すべての教科が選択できて8個の科目を選択する。そして、以前は英語と第2外国語は外国語として同じ分類範囲であったが、「2009改訂教育課程」では、「生活・教養」という教科群として、技術家庭・漢文・第2外国語・教養であり、ここから選んで学習する。それで、第2外国語は以前より立地が少し減らした。

1．2　2009改訂教育課程の「文法」

まず、「2007改訂教育課程」と「2009改訂教育課程」の内容で大きく変わった部分を整理してみると次のようである。

(1) 学習者をより能動的な主体として、実践できるようにする。

(2) より具体的に学習範囲を決め、学習の幅が広がった。

(3) 日本の最新の文化を反映しようとする努力が見える。

(4) 日本文化をそのまま伝達しようとする。

本稿では格助詞について分析する。それで、何より「2009改訂教育課程」の「文法」に注目して見てみよう。「文法」が「2009改訂教育課程」で変わったのは次のようである。

(2) 言語材料
(가) 発音および文字
(나) 語彙
(다) 文法
【別表1】に提示された'コミュニケーション基本表現'に使う文法事項を参考する。

<2007改訂教育課程の「文法」>

2. 成就基準 / 3. 教授・学習の方法
(2) 言語材料
(다) 文法
①【別表2】に提示された**‘基本語彙表’**と【別表1】に提示された‘コミュニケーション基本表現’に使う文法事項を参考する。
②日本語教育で使われる現代日本語文法による。

<2009改訂教育課程の「文法」>

第7次教育過程からは流暢性が強調され、実は文法教育についての関心は少なかった。文法教育といえば、文型をそのまま覚えさせたばかりであった。従って、相手に意味ほど伝えればいいと思われた。つまり、「コミュニケーション能力」の文型を中心に学習を勧めた。

しかし、「2009改訂教育課程」では、「コミュニケーション能力」ばかりでなく、①のように「基本語彙表」に提示された文法事項まで文法教育の対象として扱うことにしている。「基本語彙表」には名詞・動詞・形容詞・助詞・助動詞などがあり、動詞、形容詞から派生した名詞、副詞と「名詞+名詞」、「名詞+動詞の名詞刑」のような複合語、感嘆詞までも基本語彙と思うことにしている。

また、②のように日本語文法で扱う範囲を‘現代日本語’で明確に限定している。第7次教育過程では、‘古語的な文法まで扱わないことにする’と明視したが、「2007改訂教育課程」では何も言っていなかった。今回の「2009改訂教育課程」では「現代日本語文法による」と限定し、コミュニケーション能力ばかりでなく、最近の現代日本語文法までも学習する必要があることを知らせている。

今までコミュニケーション能力を養うことを目的に言語の4技能を統合的に繋がって指導することを重視した。文法教育はコミュニケーション能力を阻害すると思って止揚し、重要な文型をそのまま覚えて、文法を教えた方がいいといわれた。学校の教育現場ではこのような方法を通して教えた結果、相手に日本語の意味は通じるが、正確性が大変下がって若干おかしい日本語、不自然な日本語になってしまった。特に、格助詞は日本

語文法で早めに習うべきの文法である。そして、語彙と文型との関係を決めるのに格助詞の役割は大切である。

上記のように「2009改訂教育過程」では流暢性とある程度の正確性を備えている日本語教育過程を指向していると思う。しかし、文法教育といっても、硬い文法教育でなく、コミュニケーション能力と共に向上させることができる文法の指導を目指している。このような文法教育の新しい方向において、2007改訂の高校の日本語教科書を通して、どうすればより充実な文法教育になれるのかを格助詞を中心に論じてみる。

2. 「文法」としての格助詞

2. 1　格助詞の定義

文の核心は動詞という。それで、動詞を中心にして、その他の文の成分と数が決められる。この文の成分をつなげる役割をするのが「格」である。それでは、「格」の意味について具体的に見てみよう。

まず、格の理論は昔から研究されてきた。格の理論の出発はL.イェルムスレウの『格のカテゴリー』である。ここで一番高く評価されている理論は次のようだ。我々が生きている空間において知覚できる対象は「静止」の状態か「運動」の状態かによって区別できるというのである。「静止」といえば位置に注目し、「運動」といえば移動するのが向かう起点と着点に注目するのである。つまり、静止状態の物体では位置が問題となり、運動状態の物体では起点と着点が問題となる。

そして、格文法には三つの流れがある。初めにフィルモア(Fillmore)は「格文法」を紹介した。格を「深層格」と「表層格」に区別した。深層格に変形操作が加えると表層格になるという。文は基本的構造において、一つの動詞とそれぞれが動詞と特定の格関係で結びついている一つ以上の名詞から成り立っているといった。ここで彼は動詞が必要な名詞との間の関係を格で表示することにより、深層構造が形成

されると考えた。

次にアンダーソン(Anderson)は格関係と格形式を重視しながら、研究した。格関係は文の中で特定の名詞が果たす意味役割の表示であり、格形式は意味役割を表すのに用いられる語形である。格形式は格語尾ではなく、前置詞と後置詞、語順まで含める。例えば、「私は日本に来る」という文では名詞句の「日本に」という格形式を持ち、「来る」に対しての格関係である。

最後にクック(Cook)は格の数を制限する方向で格文法を提案した。彼の格文法によると、動作主、対象、経験者、受益者、位置の5種類の格役割が認められている。格役割は関係であり、これらは規定された特徴を持つものではなく、述語との関係を表しているだけである。6)

それなら、現代での格はどんな意味で説明されているか見てみよう。格とは、狭い意味では、名詞類が文中の他の成分に対してどのような働きをするかである。広い意味での格は名詞類が述語だけでなく、他の名詞類についてどのような働きをするかまで含める。例えば、「田中さんの家」の場合、「田中さん」が「家」に対して、所有格になる。7)

また、格は名詞類が語形変化によって他の語との依存関係を明示するのである。英語に比べてみると、英語は前置詞や語順(位置)が格機能を果たしている。8) これに対して、日本語の格は後置詞の格助詞である。

日本語の名詞につき、文の名詞の数や意味の役割を表させる「格助詞」は文の名詞が述語(動詞、形容詞など) に対してどのように関係で結びつくかを示しているものである。述語の意味によって様々な役割で使われたり、それが色々な意味を持ったりしながら、それぞれの名詞句を動詞などの述語と結び付ける働きをしている。9) 例えば、「電車の窓から山や畑が見えた」という文で「電車」「窓」「山」「畑」「見え

---

6) 小泉保(2007)『日本語の格と文型』大修館書店、 p.21、pp.29-45
7) 社団法人 日本語教育学会(2005)『新版日本語教育事典』大修館書店、 p.97
8) 国語学会(1980)『国語学研究事典』明治書院、 p.125
9) 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘(2002)『日本語文法ハンドブック』J&C、p.16

た」のように並べると文にならない。名詞と動詞が具体的な事象を表すが、それぞれ言葉がどういう関係で続くかは分からない。つまり、文で助詞がなければ、それぞれの語はばらばらの関係になり、まとまった言葉にはならない。助詞は最後に文という完結体にまとめる役割をするのである。

2．2　格助詞の機能

－　表層格(形態格)と深層格(意味格)[10)]

述語に対して統合的関係を帯びている名詞句には2つの側面がある。

①　表層格(形態格)

統合的関係がどのような表現手段(表現形式)によって表現されるのかという側面である。格助詞の場合は、格助詞のような文中に現れる形態に対応して分類した。述語に対する表層格には、ガ格・ヲ格・ニ格・ヘ格・カラ格・ト格・デ格・ヨリ格・マデ格がある。例えば、「おじいさんが話を始めた」の「おじいさんが」の動作の主体がガ格に、「私はケーキが好きだ」の「ケーキが」の感情の対象もガ格に表す。

②　深層格(意味格)

ある表現手段で実現される統合的関係が意味的にどのような関係を表しているのかという側面である。表現形式の表す意味格を取り出す基準や、分類された意味格のタイプと数に対してはなかなか確定的なことがいえない。ただ、述語に対してどのような働きをするかを意味によって分類した格である。例えば、「日程が決まった」の「日程が」も、「校長が日程を決めた」の「日程を」も述語に対する対象格である。

上記のように二つに分類されるが、表層格を基本に、深層格を取り入れて、格を決める。例えば、「山田さんも行った」の場合は格助詞がなくても、「山田さんも」

10) 注7、上掲書、p.582

の格助詞として「山田さんが」と同じものだと考え、格助詞「ガ」だとされる。

本稿では、9種類の格助詞を表層格(形態格)に分類してから、各格助詞の深層格(意味格)を説明しようとする。

2．3　9種類の格助詞の意味と用法[11)]

格助詞は「ガ格・ヲ格・ニ格・ヘ格・ト格・デ格・カラ格・ヨリ格・マデ格」のように9種類がある。それでは、各格助詞の意味と用法について調べてみる。

2．3．1 「ガ格」

格助詞の「ガ」は主体と対象に意味分類ができる。「ガ」は体言、用言、助詞「の」に接続して主体を表すが、述語の内容によって意味が決定することもある。特に、状態述語の対象を表す。次の表のように詳しく説明できる。

意味	用法	例文
①動作・変化・状態の主体	「何かをする」主体	彼**が**本を読む。 雨**が**降る。 財布**が**落ちている。 目**が**赤い。
②存在主体	「ある /いる」主体	太郎**が**喫茶店にいる。
③能力・知覚・願望の対象	能力を表す「わかる、できる」 知覚を表す「見える、聞こえる」	海**が**好きだ。 水**が**飲みたい。

表1．格助詞「ガ」の意味と用法

2．3．2 「ヲ格」

格助詞の「ヲ」は対象を表すのが多い。基本的に目的格助詞であり、行為の対象、起点、経路・通過点の意味がある。簡単に分類するのは次のようだ。

11) 益岡隆志・田窪行則(1987)『日本語文法 セスル・マスターシリーズ3 格助詞』くろしお出版、pp.4-7
金田一春彦・林大・柴田威(1988)『日本語百科大辞典』大修館書店、 pp.187-190
注7、上掲書、 pp.99-105

意味	用法	例文
①動作・作用の対象	対象に変化を与え、影響が強く及ぶ。 一部の感情動詞の対象。	お茶**を**飲む。 料理**を**作る。 日本人は自然**を**愛する。
②起点	前にある名詞句によって分けられた領域の境界に注目する。	家**を**出る。 バス**を**降りる。
③経路・通過点	動作の経路・通過点を表す。	空**を**飛ぶ。 横断歩道**を**渡る。

表2. 格助詞「ヲ」の意味と用法

上記で「対象」が人の場合、その人が対象なのか主体なのか曖昧なことがある。この場合は「を」を使う。例えば、「太郎が推薦できる」の文で「太郎」という人は主体だともいえるので、曖昧である。「太郎を推薦できる」とすると対象であるのが確実である。[12)]

2. 3. 3 「ニ格」

格助詞の「ニ」は一番意味が多様である。場所、着点、受け手、原因、方向、目的、相手、時、使役・受動の動作主という意味を持つ。このように、多くの意味があって学生たちが使う時、よく間違える格助詞でもある。「ニ」は体言・用言の連体刑と連用形に続く。多くの用法は次のようだ。

意味	用法	例文
①場所	事物や状態の場所を表す。	机の上**に**ある。 大阪**に**住む。
②着点	動作の帰結を表す。	美術館**に**行く。 ゴミ箱**に**捨てる。 大人**に**なる。

12) 注7、上掲書、p.99

③受け手	能力を表す述語が来る。	私**に**は分からない。 子供**に**は難しい。
④原因	状態の原因を表す。	大きな音**に**驚く。 寒さ**に**震える。
⑤方向	方向性を強調する動詞が来る。	東京**に**向かう。 南北**に**長い。
⑥目的	主に移動動詞が来る場合が多い。	買い物**に**行く。
⑦動作の対象	動作の対象の相手である。	友達**に**会う。 先生**に**もらう。 母**に**相談する。 地下鉄**に**乗る。
⑧時	動作が行われる時であり、時間に関する名詞の後に来る。	午前10時**に**開店する。
⑨使役・受動の動作主	使役の場合は対象、受動の場合は主体である。	彼**に**仕事をやらせよう。 先生**に**叱られる。

表3. 格助詞「ニ」の意味と用法

2. 3. 4 「へ格」

格助詞の「へ」は移動性動詞の方向を表す。「ニ格」と併用もできるが、「へ格」の方が動的であり、「ニ格」は静的な方である。

意味	用法	例文
方向・目的地	進行する方向に重点を置く動詞が来る。	東京**へ**向かう。 故郷**へ**帰る。 部屋**へ**入る。

表4. 格助詞「へ」の意味と用法

2. 3. 5 「ト格」

格助詞の「ト」は述語の主体が二人以上であり、同じ立場で立つ。そして、体言に接続し、「ト」によって共同の立場になる。この意味以外にも、比較対象、内容、変化の結果の意味がある。

意味	用法	例文
①共同動作の相手	一緒に動作をする動詞を取る。	家族**と**行く。 花子**と**結婚する。 母**と**相談する。
②比較対象	述語には比較になるものである。	昔**と**違う。 私の**と**同じだ。
③内容	引用のように内容を伝達する。	無効**と**みなる。 恩師**と**呼ぶ。
④変化の結果	動作が変わっていく結果を強調する。	雪が雨**と**なる。
⑤並列	同等なものを列挙する。	かびん**と**電話があります。

表5. 格助詞「ト」の意味と用法

2. 3. 6 「デ格」

格助詞の「デ」は動作が行われる場所が基本的な意味である。道具、手段によるもの、範囲を限定するなど多様な意味があるが、場所を表す「ニ格」と区別するのが大切である。

意味	用法	例文
①動作、出来事の行われる場所	場所を表す格助詞「ニ」もあるが、「デ」は動作が直接行われる場所である。	川**で**泳ぐ。 喫茶店**で**会う。
②道具・手段	「デ」の前に手段又は材料になる名詞がある。	ナイフ**で**切る。 飛行機**で**行く。
③材料	目に見える材料で何かを作り出す。質の変化を伴わない。	木**で**作る。 紙**で**飛行機を作る。
④様態	事物の存在や行動の状態を表す。	裸足**で**歩く。 一人**で**暮す。

⑤原因	動作の原因や理由を表す。	病気**で**学校を休む。 大きな音**で**目がさめる。
⑥限界点・範囲	ほとんど数を伴い、複数である。	午後7時**で**開店する。 三つ**で**やめる。
⑦単位	数字を数える単位も表す。	一人**で**住む。 三つ**で**1000円だ。

表6. 格助詞「デ」の意味と用法

2. 3. 7 「カラ格」

格助詞の「カラ」は空間的な出発点、時間的な出発、原料、経由点、起因を表す。

意味	用法	例文
①始点(時間・場所)	終点へ向かう移動・連続の起点である。「カラ」の前に来る体言は一般的に空間的な場所、順序、範囲、時間を表し、述語は移動と関係する。	4月**から**始まる。 関西空港**から**出発する。
②原料・材料	述語には生産と関係する動詞が来る。質の変化を伴う。	米**から**作る。 試験結果**から**判断する。
③起因	述語の原因を客観的に表す。	不注意**から**事故を起こす。
④経由点	起点以前の動きが認められる場合で、「カラ」の前には具体的な名詞(窓、学校、門など)が来る。	窓**から**涼しい風が吹いてくる。

表7. 格助詞「カラ」の意味と用法

2. 3. 8「ヨリ格」

格助詞の「ヨリ」は比較を表すのが一番基本的である。それ以外には、始点や否定を伴う限定を表す。

意味	用法	例文
①比較・選択の対象	動作・状態に関する比較基準を表す。	私**より**上手だ。 車で行く**より**地下鉄で行った方がいい。
②起点（場所・時間）	時空間の出発点を表す。	東京**より**北だ。 10時**より**始める。
③限定	述語に「ない」のような否定の言葉を伴う。それで、「仕方ない」、「ほかない」などが来る。	死ぬ**より**外に方法がない。 待つ**より**仕方がない。

表8. 格助詞「ヨリ」の意味と用法

2. 3. 9 「マデ格」

格助詞の「マデ」は動作や出来事が終わる終点を表すのが一般的である。そして、「カラ-マデ」の形で範囲を表すためによく使われる。

意味	用法	例文
①終点	動作・出来事が終わる時間や場所を表す。	12時**まで**勉強する。 九州**まで**出かける。
②範囲	「カラ-マデ」の形で、範囲を表す。	3時から6時**まで**寝る。 ここから東京**まで**1時間かかる。

表9. 格助詞「マデ」の意味と用法

3. 高校の日本語教科書の格助詞分析

以下では高校の日本語教科書の格助詞について分析してみようとする。その前、「2009改訂教育課程」の「文法」の内容では「コミュニケーション基本表現」だけでなく、「基本語彙表」も新しく加えた。それに、まず「基本語彙表」の中での助詞からまとめてみよう。

格助詞	**が・を・に・で・と・へ・から・まで・より**・(の)
提題助詞	なら・は
取り立て助詞	は・も・まで(意外な要素を付け加えた場合)・くらい/ぐらい・しか・だけ・ても/でも・など・なんて・ばかり
接続助詞	○並列: と・や・も・に・か・し・が ○従属: の ○従属節と主節を接続: と・まで・から・けれども・なら・ので・のに・ながら
終助詞	か・ね・よ・わ

表10. 「2009改訂日本語教育課程」の「基本語彙表」の助詞

「格助詞」は述語に対して名詞句がどのような関係にあるかを表す助詞として、本稿で扱おうとする格助詞の9種類が全部教科書に提示された。「提題助詞」は主題を提示する働きをする助詞として、「は・なら」の2つがあり、主に格助詞が提題助詞の前に位置する。「取り立て助詞」は同類の他の事項を背景にして、その事項を取り上げる働きをする助詞として、格助詞の前と後に位置する。「接続助詞」は語と語、節と節を接続する助詞として、接続方法と意味が多様である。「終助詞」は文末に現れる助詞で、述語の基本型、タ刑などに接続する。一つの助詞が様々な意味と機能を持っているので、文によって違う意味と機能を使う場合が多い。13)

本稿ではこの中でも格助詞だけを扱い、「基本語彙表」に現れる格助詞の中で

13) 益岡隆志(1992)『基礎日本語文法』くろしお出版、pp.49-53

「が・を・に・と・で・へ・から・まで・より」の9種類の格助詞が2007改訂の高校日本語教科書でどう使われているのかを調べてみる。それでは、「2007改訂教育課程」の『日本語Ⅰ』は次のように総6種類である。

	タイトル	出版者	著　者	表記
1	日本語Ⅰ	(주)교학사	한미경, 김민자,조종환, 津崎高一	A
2	日本語Ⅰ	(주)다락원	윤강구, 박차환, 문정선, 鈴木睦	B
3	日本語Ⅰ	(주)미래엔	김숙자,김태호,권지인,相澤由佳	C
4	日本語Ⅰ	(주)지학사	김옥임,박경휘,이정연,検校裕朗	D
5	日本語Ⅰ	천재교과서	임영철,이동기,윤창근,신동애, 小栗仁美	E
6	日本語Ⅰ	천재교육	최충희,이영환,박행자,김정영,本田智国	F

※以下の教科書の表記は「A・B・C・D・E・F」にする。

表11.「2007改正教育課程」の高校の『日本語Ⅰ』

それでは、各教科書での格助詞の意味用法、提示順序、指導方法について分析してみよう。

3. 1　A教科書

3. 1. 1　提示された格助詞の用法

格助詞	用法	課	例文
が	①動作・変化・状態の主体	5課	何**が**　いい？
		7課	かんだと　あきはばらと　どちら**が**　ちかいですか。
		7課	遠いから　自転車で　行った　ほう**が**　いいよ。
		8課	インサドン**が**　いいよ。
		10課	韓国は　とても　寒い　日**が**　つづいて　います。
	②存在主体	5課	どよう日に　花火大会**が**　あります。

		6課	母と作った　ことが　あります。
		7課	あそこに　信号が　あります。
		8課	駅前の本屋に　行くと、いいのが　あるよ。
		8課	カメラを　買いたいんだけど、　いいのが　ないんだ。
		8課	韓国の人形とか　韓国らしい　ものが　あります。
	③能力・知覚・願望の対象	2課	どんな　えいがが　すきですか。
		2課	スポーツが　すきですか。
		6課	なっとうが　好きですか。
		9課	映画が　好きなので、楽しかったです。
		9課	韓国文化を　楽しむことが　できた。
		9課	しょうらいは　世界の　ために　なる　仕事が　したい。
を	①動作・作用の対象	3課	コーヒーを　どうぞ。
		3課	こちらを　どうぞ。
		3課	てんじんまつりを　見に　行きませんか。
		6課	キムチを　作る　ことが　できる？
		6課	もう　いちど　母に　作り方を　聞いて　みます。
		6課	はくさいを　半分に　切ってください。
		6課	さいごに　とうがらしなどで　味を　つけて　ください。
		7課	くすりを　飲んだ　ほうが　いいですよ。
		8課	写真を　とって　くれませんか。
		9課	韓国文化を　楽しむことが　できた。
		10課	よい　お年を　お迎えください。
		10課	いけばなを　習おうと　思ってる。
		10課	母のてつだいを　しながら、韓国料理を　習っています。

	②起点	8課	上野駅の　公園口**を**　でると、すぐ前に　上野公園が　あります。
	③経路・通過点	7課	そこ**を**　ひだりに　曲がってください。
		7課	信号**を**　左に　曲がって　まっすぐ　行って　ください。
に	①場所	7課	あそこ**に**　信号が　あります。
		8課	上野駅の　公園口を　でると、すぐ前**に**　上野公園が　あります。
	②着点	3課	カレーうどん**に**　します。
		9課	わたし**に**も　教えて。
		6課	しお水**に**　はくさいを　5時間ぐらい　つけて　ください。
		8課	友だち**に**　チョコレートを　買う　つもりです。
		9課	アニメ作家**に**　なりたいんです。
		9課	修学旅行で　韓国**に**　行ってきた。
		10課	昨年　たいへん　お世話**に**　なりました。
	⑤方向	7課	そちら**に**　行きたいんですが。
		7課	そこを　ひだり**に**　曲がってください。
		7課	信号を　左**に**　曲がって　まっすぐ　行って　ください。
		8課	駅前の本屋**に**　行くと、いいのが　あるよ。
		10課	日本**に**　もどって　作って　います。
	⑥目的	5課	てんじんまつりを　見**に**　行きませんか。
		5課	いっしょに　見**に**　行きませんか。
	⑦動作の対象	8課	どうぶつ**に**　会う　ことが　できます。
		10課	わたしは　こちらで　友だち**に**　会ったり、テレビを　見たり　しています。
	⑧時	5課	どよう日**に**　花火大会が　あります。
		6課	きい**に**　とうがらしなどで　味を　つけて　ください。
へ	方向・目的地	2課	すいえいぶの　みなさん**へ**

		4課	中へ　どうぞ。
		4課	たかし　せんぱいへ
		9課	韓国へ　ようこそ。
と	①共同動作の相手	6課	母と 作った　ことが　あります。
	②比較対象	7課	かんだと　あきはばらと　どちらが　ちかいですか。
		7課	JRと　地下鉄と　どっちが　はやい？
		9課	日本と　にている　ようで　ちがう　点が　おもしろかった。
	③内容	9課	韓国の　映画は　ストーリーが　すごいと　思います。
		9課	韓国語の　勉強を　したいと　思う。
		10課	わたし、勉強　がんばろうと　思ってる。
		10課	がんばろうと　思って　います。
	⑤並列	1課	ちちと　ははです。
		1課	ちちと　ははと　わたしです。
で	①動作、出来事の行われる場所	6課	はくさいを　しお水から　出して　水で　洗って　ください。
		8課	ここでは　いろいろな　鳥を　見る　ことが　できます。
	②道具・手段	6課	遠いから　自転車で　行った　ほうが　いいよ。
		8課	地下鉄で　行く？
		9課	修学旅行で　韓国に　行ってきた。
	⑦単位	10課	テレビ　見ながら、家族で　そば　食べてるよ。
から	①始点(場所)	6課	はくさいを　しお水から　出して　水で　洗って　ください。
	①始点(時間)	2課	アニメは　5じからです。
		2課	ごご　3時からです。
	③起因	7課	遠いから　自転車で　行った　ほうが　いいよ。
より	①比較・選択の対象	7課	あきはばらより　かんだの　ほうが　少し　ちかいですね。

まで	①終点	7課	しぶや**まで**。

※表の番号(①②など)は「2. 3　9種類の格助詞の意味と用法」で提示した番号と同じだ。

表12. 格助詞の意味用法の分析 ：A教科書

3. 1. 2　格助詞の提示順序

1課は自己紹介および家族紹介から始め、「と格」から提示された。そして、2課でも「が格」は一番よく使われる「主体」の用法ではなく、「～が好きです」の「対象」を表す用法から提示された。そして、時間の表現が出て「から格」は提示されたが、「まで」は提示されない。そして、手紙の中で受け手を示す「へ」も出る。3課では動作と作用の対象を表す代表的な「を格」と「～にする」の文型を通して「に格」が提示された。5課では、「主体」の「が格」が始めに登場し、「目的」の「ます刑+に格」も提示された。6課からは「はくさいをしお水から出して水で洗ってください」のように、一つの文章に二つ以上の格助詞が登場してより長い文章が出る。また、6課では「比較」の「より格・と格」、「手段」の「で格」も初めに提示された。7課からは、以前まで提示された格助詞を元にして、「～に会う」のような文型を通して「動作の対象」の「に格」も出る。

3. 1. 3　格助詞の指導方法

本教科書での格助詞の指導方法は各課の最後の部分の「まとめ」で簡単に例文を通して整理している。また、格助詞だけを扱う練習問題もある。

課	まとめ		練習問題
	格助詞の説明	文型を通した説明	
1	と(並列)	・	
2	から(始点)	～**が** すきです	
	へ(目的地)		
3	を(動作・作用の対象)	～**に** します	
4	へ(方向)		

5	・	見**に**(目的)	○
6	・	・	
7	で(動作、出来事の行われる場所)	・	
	より(比較)		
	から(起因)		
8	・	**～に** 会う	○
9	・	**～と**思います	
		～に なる	
10	・	・	

表13. 格助詞の指導方法 ：A教科書

〔5課の練習問題〕□に共通に入る助詞を書き入れてください。

わたしは うどん□ します。 バス□ のりませんか。 映画を 見□ 行きませんか。

〔8課の練習問題〕次の文を読んで(　　)の中に入る助詞を下から選んで入れてください。

上野駅の 公園口を 出ると、すぐ前(　　)上野公園が あります。公園には 日本(　　) 一番 大きくて 古い はくぶつかん(　　)が あります。 ここでは 日本の 文化(　　) 歴史を 知る ことが できます。

が	で	に	や

3. 2　B教科書

3. 2. 1.　提示された格助詞の用法

格助詞	用法	課	例文
が	①動作・変化・状態の主体	3課	ここ**が** リビングで、となり**が** だいどころです。
		3課	ここ**が** わたしの へやです。
		3課	これ**が** なっとうですか。
		3課	もう おなか**が** いっぱいです。
		6課	うちの高校は すいえい**が** つよいよ。

		6課	すいえい部**が**　いいなあ。
		6課	えりちゃん**が**　一番だよ。
		6課	目**が**　大きかったです。
		7課	元気**が**　ないけど。
		7課	９時に　試験**が**　始まります。
		8課	田中くん**が**　まだですけど、もう　すぐ　来るそうです。
		8課	すもうは　日本人だけ**が**　やるのかと　思っていました。
		9課	授業で　わからない　ことは　授業**が**　終わってからも　親切に　教えてくださいます。
		10課	私**が**　お持ちします。
	②存在主体	4課	あそこに　ぎんこう**が**　あります。
		6課	どんな　部活**が**　ある？
		8課	すもうは　人気**が**　あるからね。
		8課	この　人形を　見た　こと**が**　ありますか。
		9課	おねがい**が**　あるんですけど。
		9課	学生たちにも　とても　人気**が**　あります。
	③能力・知覚・願望の対象	6課	すいえい**が**　好きだから。
		9課	そして　ねがった　こと**が**　かなうと　右目をかきます。
		9課	もうすぐ　富士山**が**　見えますよ。
		9課	日本語**が**　話せますか。
を	①動作・作用の対象	6課	さる**を**　見る　ときの　注意
		6課	手**を**　出さない。
		6課	食べ物**を**　みせない。
		7課	迷子に　ならないように、気**を**　つけてね。
		7課	じしょ**を**　使っても　いいです。
		7課	本**を**　見ては　いけません。

		7課	けいたい電話**を**　使ってはいけません。
		8課	目の　ない　「だるま」**を**　買って　左目**を**　かきます。
		9課	わたし**を**　一番　わかって　くれる　人。
		9課	ここに　お名前と　電話番号**を**　書いて　もらえますか。
	②起点	8課	西口**を**　出た　ところ
に	①場所	3課	トイレは　むこう**に**　あります。
		5課	おだいば**に**　いきましょう。
		5課	何時に　家**に**　帰りますか。
		7課	病院**に**　行く？
		7課	お風呂**に**　入って、すぐ　ねます。
		8課	西口**に**　来て　います。
		8課	すぐ　そっち**に**　行くから。
		8課	韓国**に**も、すもうと　にているのが　あるでしょ？
		10課	今日は　どこ**に**　行きましょうか。
		10課	韓国**に**も　ぜひ　遊びに　来てください。
	②着点	4課	なに**に**　しますか。
		4課	ハンバーガーと コーラ**に**　します。
		4課	400えん**に**　なります。
		6課	ハナさんは どんな部活**に** 入りたい？
		7課	迷子**に**　ならないように、気を　つけてね。
		9課	お茶でも　飲んだから、観光**に**も　行こうか。
		9課	後　15分ぐらいで　大阪駅**に**　着きます。
		10課	お世話**に** なりました。
		10課	お体**に**　お気を　つけてください。
	⑥目的	5課	ハナさん、今度の日ようび、どこか　あそび**に**　行きませんか。
		6課	部活　見**に**　行かない？
		6課	また　見**に**　行きたいです。

		10課	韓国にも　ぜひ　遊び**に**　来てください。
		10課	空港まで　お迎え**に** 来てくださって。
	⑦動作の対象	5課	何時**に**　あいましょうか。
		9課	学生たち**に**も　とても　人気が　あります。
		10課	たけしちゃん**に**も　よろしく　お伝えください。
		10課	小林さん**に**は　ほんとうに　お世話に　なりました。
	⑧時	5課	何時**に**　家に　帰りますか。
		7課	しけんが　はじまる　10分前**に**　教室に　入ってください。
		10課	12月31日の夜**に** 食べるそばですよ。
へ	方向・目的地	1課	こちら**へ**　どうぞ。
		5課	みんなで　食堂**へ**　行く？
		8課	日本**へ**　いったことが　ありますか。
		10課	キョンボックン**へ**　行って　みたいんです。
と	②比較対象	8課	韓国にも、すもう**と** にているのが　あるでしょ？
	③内容	1課	わたしは　やまだゆか**と**　もうします。
		7課	これは　日本語で　何**と**　言うの？
		8課	田中さんが　まだですが、もう　すぐ　来る**と**　思います。
		8課	すもうは　日本人だけが　やるのか**と** 思っていました。
		9課	30分ぐらいなら、話せる**と**　思う。
		10課	日本も　寒く　なる**と**　思いますが。
	⑤並列	3課	トイレ**と**　おふろは　むこうに　あります。
		4課	ハンバーガー**と** コーラに　します。
		9課	ここに　お名前**と**　電話番号を　書いて　もらえますか。
で	①動作、出来事の行われる場所	5課	10時に　しんばし駅**で**　会いましょう。
		5課	ひるご飯を　どこ**で**　食べますか。
		6課	近い　ところ**で**　見ない！

		8課	そこ**で**　待っててね。
		8課	すもうは　テレビ**で**しか　見た　こと　ないから。
		9課	授業**で**　わからない　ことは　授業が　終わってからも　親切に　教えてくださいます。
		10課	韓国**で**　会おうね。
	②道具・手段	6課	手**で**　さわらない。
		7課	これは　日本語**で**　何と　言うの？
		7課	ボールペン**で**　書いてください。
		9課	東京から　京都まで、新幹線**で**　2時間　ちょっとですよ。
		9課	とても　大きな　声**で**　しかります。
		10課	年こしそばは、韓国語**で**　何といいますか。
		10課	郵便**で**　送って　もらえる？
	⑦単位	9課	後　15分ぐらい**で**　大阪駅に　着きます。
から	①始点(場所)	5課	韓国の　どちら**から**ですか。
		10課	日本の　友だち**から**　もらった。
	③起因	6課	すいえいが　好きだ**から**。
		7課	もう　ハナちゃんのです**から**。
		7課	だいじょうぶ、たいした　ことない**から**。
		8課	すぐ　そっちに　行く**から**。
		8課	すもうは　テレビ**で**しか　見た　こと　ない**から**。
より	①比較・選択の対象	7課	ぼく**より**　多いね。
	②起点(場所・時間)	10課	ユ・ハナ**より**
まで	①終点	5課	何時**まで**ですか。１時**まで**です。
		10課	空港**まで**　お迎えに来てくださって、
	②範囲	6課	すいえい部は　月ようび**から**　金ようび**まで**　れんしゅうが　あるよ。
		9課	東京**から**　京都**まで**、新幹線で　2時間　ちょっとですよ。

※表の番号(①②など)は「2．3　9種類の格助詞の意味と用法」で提示した番号と同じだ。

表14．格助詞の意味用法の分析：B教科書

3. 2. 2. 格助詞の提示順序

本教科書では、初めに文法学習の方向を説明している。文法は日本語会話の速い習得に役に立たれるように、順番とは関係なく提示されているし、各課の難しさによって量を調節すると書いてある。何より文法は理解だけで終わることではなく、それが「話」の中で溶け入れ流暢にコミュニケーションできるのに目的があり、これのために様々な練習を通して自然に習得できることを強調している。

本論では、1課は挨拶が学習内容であり、格助詞は提示されない。2課は日本の家に友達を招待して紹介をする場面を通して「方向」の「へ格」、「並列」の「が格」が出る。3課では「主体」の「が格」が主に出る。そして、存在の表現が出て「～にあります」の「に格」が提示される。4課では「～にする」、「～になる」の文型を通して「着点」の「に格」が提示される。5課では「始点」の「から格」、「終点」の「まで格」そして、「単位」と「動作が行われる場所」の「で格」、「目的」の「ます刑+に格」など、様々な格助詞が出始める。6課では「範囲」の「から—まで格」、「～が好きです」の「が格」、「対象」の「を格」が初めに提示された。7課では「起因」の「から格」、「比較」の「より格」、「道具・手段」の「で格」が提示される。8課からは以前までの格助詞が多様に出ている。ただ、10課で「起点」の「より格」が提示される。

3. 2. 3　格助詞の指導方法

この教科書での格助詞の指導方法は各課の最後の部分の「まとめ」で簡単に例文を通して整理している。また、格助詞だけを扱う練習問題もある。

課	まとめ		練習問題
	格助詞の説明	文型を通した説明	
1	・	・	
2	・	・	○
3	・	・	
4	・	・	

5	に(目的)	・	○
6	・	・	
7	・	・	
8	・	・	
9	・	・	○
10	・	・	

表15. 格助詞の指導方法 ：B教科書

〔2課の練習問題〕下線に入れる言葉を探して書いてください。

から　　へ　　の

① 食堂_____ 行く?

② 韓国の どちら____ですか。

〔5課の練習問題〕相応しい助詞を入れて文章を書いてください。

の　　まで　　が　　は

① あるよ / すいえい部 / れんしゅう / 金曜日

✎_____

② スポーツ / わたし / 好きだから

✎_____

〔9課の練習問題〕言葉の順番を正しく並んでください。

◆ 京都 / まで / 新幹線 / ちょっと / で / 2時間 / です

✎_____

3. 3　C教科書

3. 3. 1. 提示された格助詞の用法

格助詞	用法	課	例文
が	①動作・変化・状態の主体	5課	ゆたか**が** とても すてきですね。
		5課	お祭りの しゃしん**が**

		6課	あたま**が**　いたいです。
		6課	さいふ**が**　ないんです。
		6課	キムチ**が**　かるい。
	②存在主体	6課	ねつ**が**　ある。
		9課	なっとうを　たべた　こと**が**　ありますか。
		9課	ひこうきに　のった　こと**が**　ありますか。
	③能力・知覚・願望の対象	3課	やきゅう**が**じょうずですね。（知覚）
		3課	うた**が**　とても　じょうずですね。
		5課	ドラマのほう**が**　好きです。
		7課	旅行**が**　好きです。
		7課	乗るの**が**　まだ　下手です。
		7課	今日は　カレー**が**　たべたいです。
		8課	わたしは　韓国**が**　好きです。
		10課	日本語**が**　話せますか。（能力）
		10課	おさしみ**が**　食べられますか。
を	①動作・作用の対象	2課	お茶**を**　どうぞ。
		6課	あの信号**を**　左に　曲がるとありますよ。
		7課	なに**を**　したいですか。
		7課	すもう**を**　みたいです。
		7課	うどん**を**　たべます
		8課	花火**を**　見に　行きませんか。
		8課	運動**を**　していますか。
		8課	ニュース**を**　見て　いますか。
		8課	やさい**を**　食べていますか。
		8課	ぎゅうにゅう**を**　飲んでいますか。
		9課	なっとう**を**　たべたことが　ありますか。
		10課	ドア**を**　あけても　いいですか。

に	①場所	6課	山田さんは どこ**に** いますか。
		7課	ふじさん**に**　登ります。
		8課	コンビニの前**に**　いるよ。
		10課	ここ**に**　座っても　いいですか。
	②着点	4課	何**に** する?
		4課	ぼくは　かつどん**に**　する。
		7課	体**に**　気を　つけてください。
		8課	わたしも　それ**に**　しようかな。
	⑤方向	7課	さっぽろ**に** いきたい。
		8課	プール**に**　行きませんか。
		9課	外国**に**　行ったころが　ありますか。
		9課	今日は　ユラさんの家**に**　行った。
	⑥目的	8課	花火を　見**に**　行きませんか。
		8課	いっしょに　お土産　買い**に**　行かない？
	⑦動作の対象	7課	友だち**に**あいたいです。
		7課	しんかんせん**に** 乗ります。
		9課	ひこうき**に**　のったことが　ありますが。
	⑧時	6課	そこで　10時**に**。
		7課	みさきさんは　休みの日**に**　何を　しますか。
		8課	6時**に**　公園で　会いましょう。
へ	方向・目的地	1課	ユラさんは いつにほん**へ** きましたか。
		4課	こちら**へ**　どうぞ。
		7課	学校**へ** 行きます。
		7課	うち**へ**　帰ります。
		9課	チェジュド**へ**　行ったことが ありますか。
と	①共同動作の相手	8課	山下さん**と** 山登り
		9課	犬**と** 遊んだり、運動を したり します。

	②比較対象	5課	ドラマ**と** 映画**と** どちらが 好きですか。
		5課	やきそば**と** たこやき**と** どっちが 好き?
	⑤並列	2課	ちち**と** ははです。
		4課	パンひとつ**と** ジュースふたつ ください。
で	①動作、出来事の行われる場所	6課	どこ**で** 会う?
		7課	日本**で** 何を したいですか。
		8課	6時に　公園**で**　会いましょう。
		9課	プール**で**　泳ぐ。
		10課	ここ**で**　写真を　とっても　いいであうか。
	②道具・手段	8課	ソウルから KTX**で** 2時間半ぐらいです。
		9課	タクシー**で**　いったほうが　いいですよ。
		10課	ハングル**で**　かいても　いいですか。
	④様態	8課	大きい声**で**　いってください。
	⑦単位	4課	せんぶ**で** 430円です。
		4課	二つ**で** いくらですか。
		10課	今度　2人**で** 韓国に 遊びに 来ない？
から	①始点(場所)	1課	ワンさんは ちゅうごく**から** きました。
		1課	かんこく**から**　きました。
		8課	ソウル**から** KTXで　2時間半ぐらいです。
	①始点(時間)	3課	びょういんは 何時**から**ですか。 10時**から**です。
		6課	いつ**から**ですか。　きのう**から**です。
	③起因	3課	やきゅう 好きだ**から** たのしいです。
		4課	あまり　すきじゃない**から**。
		8課	つかれた**から** ちょっと 休んでた。
		8課	お土産だ**から**、大きいのは　ちょっとね。
		10課	わたしが　案内する**から**　だいじょうぶ。

より	・		・
まで	①終点	3課	きょうも おそくまで れんしゅう?
		7課	まいにち おそくまで アルバイトをします。
	②範囲	5課	2月7日から 13日までです。

※表の番号(①②など)は「2. 3　9種類の格助詞の意味と用法」で提示した番号と同じだ。

表16. 格助詞の意味用法の分析 ：C教科書

3. 3. 2　格助詞の提示順序

本教科書に出た格助詞の用法は次のようである。「より」を除いて、 8 つの格助詞が提示された。格助詞の様々な意味があることに比べてみると、少し狭い意味範囲に限定している。1課は自己紹介の文型を学習するので、「国家名+から/へ」のようにコミュニケーション基本表現に当たる格助詞から提示された。2課では他の教科書より先に「対象」の「を格」が提示される。そして、「並列」の「と格」も出る。3課では時間に関する文型が出て「始点」の「から格」、「終点」の「まで格」が提示される。それに、「起因」の「から格」も一緒に提示される。また、「が格」も「～が好きです」の文型を通して見られる。4課と5課では「単位」「動作が行われる場所」の「で格」、「範囲」の「から―まで」、「着点」「場所」「時」の「に格」など、様々な新しい用法の格助詞が提示される。そして、6課で「主体」の「が格」が出る。7課では「～に会う」「～に乗る」「～が～たい」のような重要な文型を通して格助詞を学習できる。8課からは以前までの格助詞が出て、より多様な意味を伝えるが他の教科書より文章が短くて一つの文の中に重要な格助詞が一つぐらい入れてある。

3. 3. 3　格助詞の指導方法

本教科書の格助詞の指導方法は各課の最後の部分の「まとめ」で簡単に一つか二つの例文を通して整理している。しかし、他の教科書より格助詞についての説明や練習問題がない。教科書の中の多くの学習内容でも穴埋めの問題のようなものも格

助詞はほとんど書いてあり、格助詞に対する学習する機会がなかなかなさそうである。例え、「どうしたんですか」という問いに対して、「おなかが_____んです。」のように書いてあて、学習者は下線に「いたい」だけ入れればいい。また、「_____ほうがいいでよ。」にも下線に「～た」刑の動詞だけ入れることができたらいい。それで、実際に学習者が日本語で言う時は、「おなかいたい」とか「たべたほういい」のようにいってしまう場合が発生する可能性がある。

課	まとめ		練習問題
	格助詞の説明	文型を通した説明	
1	・	・	
2	へ(方向・目的地) を(対象)	・	
3	から(始点・起因)	・	
4	・	・	
5	・	・	
6	と(共同動作の相手)	・	
7	・	・	
8	・	・	○
9	・	・	
10	・	～が 読める(能力の対象)	

表17. 格助詞の指導方法 ：C教科書

〔8課の練習問題〕関連した言葉を繋がって文を完成してください。

① 名前 ▪ を ▪ あげます →_____

② 宿題 ▪ ▪ 出します →_____

③ 図書館 ▪ に ▪ 来ます →_____

3. 4　D教科書

3. 4. 1.　提示された格助詞の用法

格助詞	用法	課	例文
が	①動作・変化・状態の主体	2課	あの　建物**が**　たいいくかんです。
		4課	明日　予定**が**　ありますか。
		6課	花火**が**　上がりました。
		9課	ほけんしつへ　行ったほう**が**　いいです。
		9課	みどり**が**　多くて、気持ち　いいですね。
		10課	おかげさまで、たくさんの　思い出**が**　できました。
	②存在主体	8課	せき**が**　ありませんね。
	③能力・知覚・願望の対象	3課	べんりな　でんしじしょ**が**　ほしいです。
		4課	韓国語**が**　分かりますか。
を	①動作・作用の対象	4課	いっしょに　映画**を**　見ませんか。
		4課	テニス**を**　しませんか。
		6課	昨日は　何**を**　しましたか。
		7課	これ**を**　飲んで　ください。
		7課	これから　テスト**を**　始めます。
		8課	ここで　写真**を**　とっては　いけません。
		9課	漢字**を**　書く　ことが　ありますか。
		10課	気**を**　つけてね。
に	①場所	2課	この　近く**に**　トイレは　ありますか。
		7課	ここ**に**　座って　ください。
	②着点	6課	友だちと　花火たいかい**に**　行きました。
		7課	野球のせんしゅ**に**　なりたいです。
		7課	アメリカに　行って　プロのせんしゅ**に**　なりたいです。
		9課	いっしょに　日光**に**でも　行きませんか。
		10課	明日　コンサート**に**　行きませんか。
		10課	韓国**に**　帰らなければなりません。

	⑥目的	5課	3人で　見**に**　行きませんか。
		7課	山登り**に**　行く。
		10課	いっしょに　買い物**に**　行きませんか。
		10課	かいもの**に**　行くつもりです。
	⑦動作の相手	7課	友だち**に**　会ったり、ゲームを　したり　します。
		8課	閉まる　ドア**に**　ごちゅういください。
		9課	しんかんせん**に**　乗ったことが　ありますか。
		9課	有名人**に**　会ったことが　ありますか。
		10課	ご家族**に**　よろしく　お伝えください。
	⑧時	4課	土ようび**に**　予定が　ありますか。
		5課	上野駅で、10時**に**、どうですか。
		8課	１日**に**　お水を　飲んでいます。
		9課	帰り**に**　入りましょう。
へ	方向・目的地	1課	ようこそ、日本**へ**。
		4課	図書館**へ**　行きませんか。
		9課	ほけんしつ**へ**　行ったほうが　いいです。
		9課	日光**へ**　行った　ことが　ありますか。
		10課	あやさん**へ**
と	①共同動作の相手	4課	母**と**弟です。
		6課	友だち**と**　花火たいかいに　行きました。
	②比較対象	5課	そこまで　電車**と**　バス**と**　どちらが　はやいですか。
		5課	おちゃ**と**　コーヒー**と**　どちらが　いいですか。
	③内容	4課	オ・ヘラ**と**　もうします。
		9課	ここは　何**と**　いう　ところですか。
	⑤並列	6課	あやさん**と**　みきさん**と**　3人で　行きました。
		9課	きれいな　自然**と**　おんせんでも　有名です。

で	①動作、出来事の行われる場所	3課	ここが　新宿**で**　有名な　お店です。
		5課	学校**で**　足が　一番　はやいです。
		5課	上野公園**で**　試合が　あります。
		10課	原宿**で**　食べた　クレープ
	②道具・手段	9課	日本語**で**　話すことが　ありますか。
	④様態	8課	大きい　声**で**　話しても　いいですか。
		10課	お元気**で**。
	⑥限界点・範囲	5課	スポーツの中**で**　何が　一番　好きですか。
	⑦単位	5課	3人**で**　見に　行きませんか。
		6課	あやさんと　みきさんと　3人**で**　行きました。
		9課	みんな**で**　行きましょう。
から	①始点(場所)	1課	かんこく**から**　きました。
		8課	ここ**から**　どのぐらい　かかりますか。
		9課	そってより　こっち**から**　とった　ほうが　いいですよ。
	①始点(時間)	2課	じゅぎょうは　なんじ**から**ですか。
	③起因	6課	おなか　いっぱいです**から**。
		6課	用事が　ありました**から**、来ませんでした。
		10課	病院のなかです**から**、けいたいを　使わないで　ください。
		10課	勉強するつもりです**から**、あやさんも　がんばってください。
より	①比較・選択の対象	9課	そっち**より**　こっちから　とった　ほうが　いいですよ。
まで	①終点	2課	何時**まで**ですか。
		4課	駅**まで**　送ります。
		5課	そこ**まで**　電車と　バスと　どちらが　はやいですか。
		10課	今**まで**　お世話に　なりました。

※表の番号(①②など)は「2. 3　9種類の格助詞の意味と用法」で提示した番号と同じだ。

表18. 格助詞の意味用法の分析 ：D教科書

3. 4. 2. 格助詞の提示順序

本教科書でも1課の自己紹介の内容で「国家名+から/へ格」が提示される。2課では時間を学習し、時間の始点としての「から格」、時間の終点としての「まで格」と「場所」の「に格」が提示される。3課では「～がほしい」が重用な文型で新しい「が格」の用法が出る。4課では「対象」の「を格」や「～が分かる」の「が格」や「並列」「内容」の「と格」が出る。5課では「～が好きです」「～が上手です」の「対象」の「が格」、「目的」の「ます刑+に格」などが新しく提示される。6課では「起因」の「から格」と「共同動作の相手」の「と格」、「単位」の「で格」が提示される。7課からは以前の格助詞は元に文章があり、「道具・手段」の「で格」や「～に会う」や「～に乗る」の「に格」、「比較」の「より格」ぐらいの格助詞が出る。

3. 4. 3　格助詞の指導方法

本教科書では格助詞の内容がたくさん載せている。「まとめ」で文型と例文を通して多様にまとめている。また、最後に格助詞の学習の理解を確認する問題も提示している。

課	まとめ		練習問題
	格助詞の説明	文型を通した説明	
1	へ(方向・目的地)	・	○
	から(始点)		
2	が(主体)	・	
	に(場所)		
	まで(終点)		
3	・	～が ほしいです	
		～(を) ください	
4	・	・	○
5	・	見に 行きます(目的)	○
		N1とN2と どちらが ～ですか	

		Nの 中で 何が 一番~ですか	
6	·	~に 行きます(場所)	
7	·	·	
8	·	·	
9	·	~ことが できます	○
		~た ことが あります	
		~た ほうが いいです	
10	·	·	

表19. 格助詞の指導方法 ：D教科書

〔1課の練習問題〕よく聞いて、□に正しい文字を入れてください。

はじめまして。わたし□ イ・ユナ□□。かんこく□□きました。

こうこう 1ねんせい□□。どうぞ よろしく □□□□□□□。

〔4課の練習問題〕単語を正しく並んでください。

ヘラさん / を / は / 食べますか / よく / おすし

✎ _____

〔5課の練習問題〕□に入る正しい言葉を選んで書いて言ってください。

▪の ▪で ▪と ▪が ▪ほう

① A: スポーツ□ 中□ 何□ 一番 すきですか。

B: テニス□ 一番 好きです。

② A: 東京□ ソウル□ どちら□ あついであすか。

B: 東京の□□が あついです。

〔9課の練習問題〕単語を正しく並んで文を書いてください。

① とった / こっち / ほう / から / が / いいですよ

✎_____

② 近くて / 東京 / から / 景色 / も / きれいです

✎_____

3. 5　E教科書

3. 5. 1　提示された格助詞の用法

格助詞	用法	課	例文
が	①動作・変化・状態の主体	3課	ぼくは　サッカー部**が**　いいですね。
		6課	この　みせは　うどん**が**　おいしいです。
		6課	道**が**　こんで　いるから　電車で　行きましょう。
		8課	おなか**が**　いたくて。
		8課	顔色**が**　悪いですね。
		9課	はこね**が**　いいと　おもいます。
		10課	ひと**が**　ならんで　いますね。
		10課	ことしは　なつ**が**　ながいようですね。
	②存在主体	3課	サッカー部や　すいえい部など**が**　あります。
		5課	たこやきを　たべた　こと**が**　ありますか。
		6課	お母さん**が**　いない。
		7課	やくそく**が**　あるんだ。
		9課	バス**が**　ないから。
	③能力・知覚・願望の対象	2課	サッカー**が**　じょうずですね。
		2課	スポーツのなかで　なに**が**　いちばん　好きですか。
		2課	サッカー**が**　すきです。
		9課	えいご**が**　はなせますか。
		9課	日本語**が**　話せますか。
を	①動作・作用の対象	2課	ジュース**を**　どうぞ。
		4課	ジュース**を**　のみながら、テレビ**を**　みます。
		4課	何**を**　しますか。
		4課	映画**を**　見に　行く時も　あります。
		4課	本**を**　読みます。
		5課	なに**を**　したいですか。
		5課	えいが**を**　みたいです。

		5課	たこやき**を**　たべた　ことが　ありますか。
		5課	ぼんおどり**を**　知っていますか。
		8課	きょうしつに　テータイ**を**　わすれたんです。
		8課	かぜ**を**　ひいたんですが。
		9課	なに**を**　しようと　おもっていますか。
		10課	チマは　長すぎて　歩く　時は　気**を**　つければ　ならなかった。
	③経路・通過点	5課	銀行**を**　右へ　まがると　コンビニが　あります。
		5課	ここ**を**　まっすぐ　行ったら　左に　あります。
に	①場所	3課	あの　しろい　たてものの　うし**ろに**　あります。
		5課	ひがし公園**に**　行きたいんですが、
		8課	きょうしつ**に**　テータイを　わすれたんです。
		8課	おふろ**に**　はいらない　ほうが　いいですよ。
		10課	韓国**に**　また　行きたいです。
	②着点	6課	わたしは　うどん**に**　します。
		6課	これ**に**　します。
		7課	ハチ公の前で　会うこと**に**　しました。
		8課	あちら**に**　すてて　ください。
		8課	スピーチ大会**に**　出たいんですが。
		10課	かぜを　ひかないように　お体**に**　気を　つけて　ください。
		10課	ご家族の　みなさん**に**も　よろしく　お伝えください。
	⑤方向	7課	ももかさんは　いま　アメリカ**に**　いって　いるよ。
	⑥目的	3課	映画を　見**に**　行く時も　あります。
		6課	けいたいを　買い**に**　秋葉原へ　行って　きます。
		7課	お祝い**に**　テーマパークへ　いかない？
	⑦動作の対象	9課	ご両親**に**は　温泉が　いいかも　しれません。
	⑧時	3課	休みの日**に**　何を　しますか。
		7課	日曜日**に**　ももかさんと　テーマパーク**に**　行くんですが、

		9課	冬休みに　両親が　日本に　来る　予定なんですが。
へ	方向・目的地	2課	こちらへ　どうぞ。
		3課	サッカー部へ　どうぞ。
		5課	にほんへ いきたいです。
		5課	銀行を　右へ　まがると　コンビニが　あります。
		6課	けいたいを　買いに　秋葉原へ　行って　きます。
		7課	よかったら　いっしょに　テーマパークへ　いかない？
		9課	ほっかいどうへ　いこうと　おもって　います。
		9課	ようこそ、はこねへ
		10課	じゅくへ　いく　ところです。
		10課	インサドンへ　行ってきた。
と	①共同動作の相手	7課	日曜日に　ももかさんと　テーマパークに　行くんですが、
	②比較対象	6課	バスと　でんしゃと　どちらが　はやいですか。
	③内容	5課	この漢字、　なんと　読みますか。
		9課	はこねが　いいと　おもいます。
	⑤並列	8課	ここに　クラスと　名前を　書いてください。
		10課	韓国と　日本の　文化は　おもったより　違う。
で	①動作、出来事の行われる場所	4課	たいてい　家で　休みます。
		5課	夏祭りで　おどる　おどりの　ことじゃ　ないんですか。
		7課	しぶやの　ハチ公の前で　会わない？
		7課	ハチ公の前で　会うことに　しました。
		9課	インターネットで　さがして　みようと　思っていたんですが、
		10課	ドンウさんの　家で　ホームステイを　することに　した。
		10課	韓国では　いろいろ　お世話に　なりました。
	②道具・手段	5課	まんがで　読んだ　ことが　あります。
		6課	秋葉原へは　バスで　行きますか。
		8課	自転車で　日本を　旅行する。

	⑤原因	7課	このごろ　ぶんかさいの　ことで　いそがしいよ。
		8課	かぜで　ちょっと。
から	①始点(場所)	2課	にほんから　きました。
		2課	韓国から　来ました。
		6課	お父さんから　でんわが　ありました。
		9課	箱根駅から　電車で　1時間30分
	①始点(時間)	4課	音楽は　なんじからですか。
		4課	ふゆやすみは　12がつ23にちからでしょう。
		9課	いまから　ねる。
	③起因	9課	バスが　ないから。
		10課	こどもが　まっているから　はやく　かえらなければなりません。
		10課	かんこくとは　はんたいですから、きを　つけなければなりません。
より	①比較・選択の対象	6課	バスより　でんしゃの　ほうが　はやいです。
		10課	韓国と　日本の　文化は　おもったより　違う。
まで	①終点	6課	9時までに　帰ります。
		8課	しゅくだいは　いつまでに　ですか。
	②範囲	4課	15日から17日までですよ。
		9課	東京から あたみまで　どのぐらいですか。

※表の番号(①②など)は「2．3　9種類の格助詞の意味と用法」で提示した番号と同じだ。

表20．格助詞の意味用法の分析：E教科書

3．5．2　格助詞の提示順序

1課は文字の学習で、2課から内容が始まる。2課は他の教科書と同じように自己紹介から始まり、「国家名+から」と家を訪ねる時に言う案内や食べ物の勧誘の時「こちらへどうぞ」、「ジュースをどうぞ」の「へ格」、「を格」が提示される。3課では主に「が格」を中心に出ている。「主体」、「～があります」、「～が上手で

す」、「～が好きです」のようにほとんどの「が格」が提示されている。4課では時間に関する表現を扱って「から―まで」や動作が行われる場所の意味の「で格」、「共同動作の相手」の「と格」が提示されている。5課では「道具・手段」の「で格」が出ている。6課からは「～にする」の「に格」や「比較」の「と格」、「より格」のような格助詞が新しく提示されながら、いくつかの格助詞が入れてある文が多い。特に、この教科書では他の教科書にはない「原因」の「で格」がある。

3. 5. 3　格助詞の指導方法

本教科書では格助詞の説明を別にまとめていない。主に、形容詞と動詞の「ない刑・た刑」などのような文法と漢字に重点を置いている。でも、いくつかの格助詞はページの下に「チップ(tip)」というコーナーで書いてある。

課	チップ(tip)		練習問題
	格助詞の説明	文型を通した説明	
1	・	・	
2	・	・	
3	・	～が　すきです	○
4	・	・	
5	と(内容)	・	
6	・	・	
7	・	・	
8	・	・	
9	・	～に　会う	
10	・	・	

表21. 格助詞の指導方法 ：E教科書

〔3課の練習問題〕㋐に入る助詞に正しいのは?

（前略）ぼくは スポーツ＿㋐＿ 好きですが。

① って　② の　③ に　④ に

3. 6　F教科書

3. 6. 1. 提示された格助詞の用法

格助詞	用法	課	例文
が	①動作・変化・状態の主体	7課	きのうから　は**が**　いたいんです。
		7課	窓を開けた　ほう**が**　いいですよ。
		7課	きのうから　は**が**　いたいんです。
		8課	友だち**が**　来たので　家に　いました。
		8課	図書館の人**が**　親切に教えてくれた。
		9課	韓国の高校は　冬休み**が**　長いですか。
		10課	セホ君**が**　韓国へ　帰ってから　もう　一ヶ月ぐらい　すぎました。
	②存在主体	4課	あそこに　白い　建物**が**　ありますね。
		5課	日曜日は　約束**が**　あるんですが。
		6課	日本語の　テスト**が**　あります。
		6課	日本高校とサッカーの　試合**が**　あります。
		8課	試験**が**　あったので　図書館で　勉強しました。
	③能力・知覚・願望の対象	2課	サッカー**が**　すきです。 やきゅう**が**　すきです。
		6課	サッカー**が**　好きな人なら　だれでも　オーケー。
		8課	ここで　おどること**が**　できますか。
		8課	パソコンの　使い方**が**　よく　わかりませんが。
		8課	パソコンの使い方**が**　わからなくて
		9課	絵**が**　上手に　なりましたね
を	①動作・作用の対象	5課	かぶき**を**　見に　行きませんか。
		6課	写真**を**　とって　くれませんか。
		6課	日曜日　何**を**　する　よていですか。
		6課	テレビ**を**　見ても　いいですか。
		6課	カメラ**を**　見て　ください。
		7課	ゲーム**を**　しないでください。

		7課	窓を 開けた　ほうが　いいですよ。
		7課	３・３・３を　守りましょう。
		8課	映画を　見たいです。
		8課	すもうを　見たことが　ありますか。
		9課	休みの　日に　何を　する　よていですか。
		9課	お正月に　何を　しますか。
		9課	日本では 着物を 着るんですが、韓国は どうですか。
		10課	また　会う　日を　楽しみにしています。
に	①場所	4課	としょかんの　前に　あります。
		4課	ちょっと　本屋に　いってきます。
		6課	学校に　集まって　いっしょに　行きませんか。
		6課	チアガールは　前に　ならんで　座ってください。
		8課	友だちが　来たので　家に　いました。
	②着点	4課	ラーメンに　します。
		4課	私も　セホ君と　おなじ物に　します。
		4課	今度の試合に　勝つために。
		5課	今度の日曜日、ボランティアに　いきませんか。
		6課	コンサートに　行く　よていです。
		7課	ごみは　ゴミ箱に　すてなければなりません。
		7課	病院に　行ったほうが　いいですよ。
		9課	絵が　上手に　なりましたね。
		9課	家に　遊びに　来て　ください。
		9課	セホ君に　韓国の　お正月に　ついて　紹介してもらいます。
		10課	夏休みに　韓国に　行こうと　思っています。
	⑥目的	5課	かぶきを　見に　行きませんか。
		6課	おうえんに　来て　くれませんか。
		8課	今度　ぜひ　見に　行きたい。

		9課	家に　遊び**に**　来て　ください。
		10課	また　日本に　遊び**に**　来て　ください。
	⑦動作の対象	5課	日本の生活**に**は　なれましたか。
		6課	友だち**に**　会う　よていです。
		8課	友だち**に**　会いたいです。
		10課	学校の　生活**に**　なれるか　どうかで　心配でした。
	⑧時	5課	駅の前で　10時**に**　会いましょう。
		7課	寝る前**に**は 何も 食べないほうが　いいです。
		9課	お正月**に**　何を　しますか。
		10課	夏休み**に**　韓国に　行こうと　思っています。
へ	方向・目的地	6課	こちら**へ**　集まって　ください。
		7課	8時までに　学校**へ**　行かなければなりません。
		7課	上から下**へ**　下から上**へ**　きれいに　みがきましょう。
		8課	約束が　あったので　外**へ**　出かけました。
		9課	今度の　冬休みに　韓国**へ**　かえりますか。
		10課	あした　セホ君が　韓国**へ**　かえります。
		10課	韓国**へ**　帰っても　みなさんとの　ことは　忘れられないと 思います。
		10課	セホ君**へ**
		10課	セホ君が　韓国**へ**　帰ってから　もう　一ヶ月ぐらい　すぎました。
と	①共同動作の相手	6課	子供**と**　遊んで　くでませんか。
		6課	日本高校**と** サッカーの　試合が　あります。
		7課	となりの　人**と**　話してください。
		9課	友だち**と**　話したり　いもうと**と**　遊んだり　します。
	②比較対象	4課	私も　セホ君**と**　おなじ物に　します。
	⑤並列	4課	ラーメン**と**　うどんですね。
		4課	ぎゅうどん　ひとつ**と**　カツどん　ふたつですね。
		10課	先生**と**　みなさんの　おかげで　無事に　きょうまで　来られました。

で	①動作、出来事の行われる場所	5課	駅の前**で**　10時に　会いましょう。
		5課	老人ホーム**で**　せんたくや　そうじなどを　しました。
		7課	教室**で**　走らないでください。
		8課	家**で**　休みたいです。
		8課	試験が　あったので　図書館**で**　勉強しました。
		9課	ひさしぶりに　家**で**　テレビを　見たり、音楽を聞いたら　しながら　ゆっくり　やすみたいです。
		9課	韓国**で**は　お正月に　家族みんなで　挨拶を　します。
から	①始点(場所)	2課	韓国**から**　来ました。
		5課	イ・セホさんは　韓国**から**　来ました。
	①始点(時間)	7課	きのう**から**　はが　いたいんです。
より	①比較・選択の対象	9課	日本の高校**より**　韓国のほうが　ながいです。
	②起点(場所・時間)	6課	9月10日5時**より**
まで	①終点	7課	8時**まで**に　学校へ　行かなければなりません。
		8課	来週の　金曜日**まで**に　返してください。
		10課	先生と　まなさんのおかげで　無事に 今日は　先生と　みなさんの　おかげで 無事に　きょう**まで**　来られました。
	②範囲	5課	何時**から**　何時**まで**　しましたか。

※表の番号(①②など)は「2. 3　9種類の格助詞の意味と用法」で提示した番号と同じだ。

表22. 格助詞の意味用法の分析 ： F教科書

3. 6. 2. 格助詞の提示順序

1課では文字と挨拶の内容で格助詞がない。2課では自己紹介と他人紹介のため「から格」が出て、「～が好きです」の「が格」が提示されている。3課はまた簡単な挨拶ぐらいを学習し、格助詞は出ない。4課では「場所」「～にする」の「に格」と「並列」「比較」の「と格」が新しく提示されている。5課は「対象」の「を格」、「目的」の「ます刑+に格」、

「カラ—まで」が出ている。6課には「共同動作の相手」の「と格」、「時間の起

点」の「より」が出ている。7課からは以前まで学習した格助詞を元にして書いてある。特に、この教科書は提示されている格助詞の数は少なくても十分な練習の機会がかなりある。

3. 6. 3　格助詞の指導方法

本教科書は比較的に格助詞に関する説明や練習問題が十分にある。特に、格助詞の重な用法を易しい問題を通して提示されている。

課	まとめ		練習問題
	格助詞の説明	文型を通した説明	
1	・	・	
2	から(始点(場所))	～が 好きです	
3	・	・	
4	が(存在主体)	・	○
	に(場所)		
	と(比較)		
5	で(動作が行われる場所)	・	○
	から-まで(範囲)		
6	・	・	
7	・	・	○
8	・	・	○
9	より(比較)	～と いう	
		～に なる	
10	・	・	

表23. 格助詞の指導方法 ： F教科書

〔4課の練習問題〕□に正しい助詞を入れてください。

① 何□ しますか。

② 私□ぎゅうどん□します。

③ セホ君□おなじもの□します。

④ 今度の 試合□勝つために。

ヒント
に・は・と

〔5課の練習問題〕正しい助詞を選んで埋めてください。

に　で　など　の　や

① 今週□ 土曜日、花見□ 行きませんか。

② では、駅□ 前□ 10時□ 会いましょう。

③ 老人ホーム□ せんたく□ そうじ□ しました。

〔7課の練習問題〕下線に入る言葉を本文から探して入れてください。

▪ 上____下_____、 下____ 上____きれいに みがきましょう。

〔8課の練習問題〕穴埋めをして、韓国語の意味を書いてください。

▪ 冬休みが 短い□□帰らない こと□ しました。

→ _____

4. 教科書の分析結果

4. 1　分析結果

「2007改訂教育課程」の高校日本語教科書の格助詞を分析してみた。各教科書に9種類の格助詞が大体に提示さているが、各格助詞の全ての意味用法は提示されていない。コミュニケーション能力の向上を目標にしているので、教科書の文章の中で格助詞が提示されている。次は6種類の教科書の格助詞を整理してみる。

格の種類	用法	A	B	C	D	E	F
ガ格	①動作・変化・状態の主体	○	○	○	○	○	○
	②存在主体	○	○	○	○	○	○
	③能力・知覚・願望の対象	○	○	○	○	○	○
ヲ格	①動作・作用の対象	○	○	○	○	○	○
	②起点	○	○	×	×	×	×
	③経路・通過点	○	×	○	×	○	×

格の種類	用法	A	B	C	D	E	F
二格	①場所	○	○	○	○	○	○
	②着点	○	○	×	○	○	○
	③受け手	×	×	×	×	×	×
	④原因	×	×	×	×	×	×
	⑤方向	○	×	○	×	○	×
	⑥目的	○	○	○	○	○	○
	⑦動作の対象	○	○	○	○	○	○
	⑧時	○	○	○	○	○	○
	⑨使役・受動の動作主	×	×	×	×	×	×
へ格	方向・目的地	○	○	○	○	○	○
ト格	①共同動作の相手	○	×	○	○	○	○
	②比較対象	○	○	○	○	○	○
	③内容	○	○	×	○	○	×
	④変化の結果	×	×	×	×	×	×
	⑤並列	○	○	○	○	○	○
デ格	①動作・出来事の行われる場所	○	○	○	○	○	○
	②道具・手段	○	○	○	○	○	×
	③材料	×	×	×	×	×	×
	④様態	×	×	○	○	×	×
	⑤原因	×	×	×	×	○	×
	⑥限界点・範囲	×	×	×	○	×	×
	⑦単位	○	○	○	○	×	×
カラ格	①始点(場所)	○	○	○	○	○	○
	①始点(時間)	○	○	○	○	○	○
	②原料・材料	×	×	×	×	×	×
	③起点	○	○	○	○	○	×
	④経由点	×	×	×	×	×	×
ヨリ格	①比較・選択の対象	○	○	×	○	○	○
	②起点(場所・時間)	×	○	×	×	×	○
	③限定	×	×	×	×	×	×
マデ格	①終点	○	○	○	○	○	○
	②範囲	×	○	○	×	○	○

表24. 6種類の高校日本語教科書の格助詞整理

このように多くの格助詞は教科書に提示される。特に、「主体・能力、知覚、願望の対象」の「が格」、「対象」の「を格」、「場所・目的・対象・時」の「に格」、「方向・目的地」の「へ格」、「比較対象・並列」の「と格」、「動作が行われる場所」の「で格」、「始点」の「から格」、「終点」の「まで格」は全ての教科書にある格助詞である。しかし、「受け手・原因・使役」の「に格」、「変化の結果」の「と格」、「材料・原料」の「で格」、「原料、材料・経由点」の「から格」、「限定」の「より格」は教科書に一度も提示されなかった。以外の格助詞の意味用法は一部の教科書しか提示されないのである。例えば、「方向」の「に格」は「へ格」に代わることができるので、三つの教科書でしか出てこない。他にも、「起点・経路」の「を格」、「着点」の「に格」、「共同動作の相手・内容」の「と格」、「道具手段・様態・原因・限界点、範囲・単位」の「で格」、「起点」の「から格」、「比較の対象・起点」の「より格」、「範囲」の「まで格」が一部の教科書しか提示されない。

また、6種類の教科書を見てみると、コミュニケーション能力が重要であるので、教科書の内容に沿っての文型が中心になっている。それで、格助詞の主な用法と難しさを考慮するよりも提示された文型の中の格助詞から学習するようになっている。例えば、教科書には「主体」の「が格」や「対象」の「を格」よりも日本人と韓国人が初めて会う場面が1課で出るので、国籍を言う時の「国家名+から格」から提示されているのが一般的であった。つまり、教科書の内容と文型による格助詞の提示を中心にしている。従って、文型そのままを覚えることを通して格助詞まで学習する。学習者は言いたい文を作る時、適切な格助詞を使うことが難しがる。

そして、格助詞は「まとめ」の部分で意味用法を説明しているのが一番多い。しかし、十分な説明や例文がなかった。格助詞に関する練習問題を見てみると、問題の形式はほとんど似ている。□に入る助詞を選ぶ問題、名詞・動詞・形容詞・助詞などの並んでいる言葉を正しい順番に書いてみる問題、会話文の中で文脈に正しく助詞を埋める問題などが代表的な問題の類型である。各教科書で格助詞について聞く練習問題の数は一つから四つぐらいで、多くなかった。

4．2　格助詞教育の提言

今の教科書はコミュニケーション能力のための文型を通した教育に片寄り、文法教育は以前より活発ではない。その中でも語彙と文型の関係を繋がる格助詞に対する学習は不十分に提示している。従って、格助詞について理解が難しくて、学習者は若干おかしい日本語、不自然な日本語を言う場合がある。流暢さを強調している「2007改訂教育課程」であるが、正確さも流暢さもない日本語になってしまう危険もある。このような点を考察して、「2009改訂教育課程」では文法教育を少し補っているので、これを積極的に反映して、2014年から出版されるつもりの高校日本語教科書での格助詞の学習の内容も補強する必要があると思う。

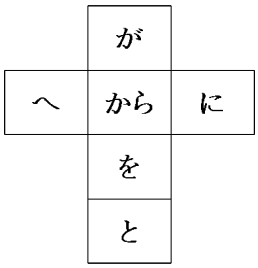
新しい2009改訂の高校の日本語教科書では全ての意味用法の格助詞を学習したほうがいいだろう。今回に分析した結果、教科書に従って9種類の格助詞の有無に差があった。そして、日本語の学習者として各格助詞の意味用法をたくさん学習することもいいと思う。「受け身」や「使役」のような難しい文法だと思われることは排除してもいいだろうが、より様々な格助詞を学習するなら伝えたいとおもう日本語が言えるだろう。例えば、「～になる」と「～となる」は変化の結果を表すことで、意味が似ている。「着点」の「に格」を学習する時、「変化の結果」の「と格」も一緒に教えると学習効果があるだろう。また、「原因」の「で格」も「原因」の「に格」と一緒に学習し、「から格」の場合も「起点」と「経由点」を一緒に説明したら、格助詞に対する理解がやさしいだろう。つまり、似ている格助詞は一緒に提示するのも多様な格助詞の学習の一つの方法である。

また、格助詞教育を積極的にするためには、練習問題も増えるだろう。現在のような穴埋め問題や単語を正しく並び、文に作る問題などはこれからもあるはずだが、文法教育がコミュニケーション能力の向上と共に行われる方法も考える必要があるだろう。また、「2009改訂教育課程」では学習者の積極的な態度を要求しているので、様々な類型の文法教育が開発するのが大切である。次には、格助詞の新しい指導方法を提案してみる。

(1) 方法1

方 法 名	似ている意味用法の格助詞分類
提示順序	7課(格助詞の学習ができた後)
目　　的	様々な格助詞の意味用法を自ら学習できる。
方　　法	① 二人がペアになる。 ② 教師から日本語文章カードをもらう。 **＜日本語文章カード＞** ▪ わたしは りんご□ 好きです。 ▪ みきちゃんは バス□ のります。 ▪ おとうとは ゲーム□ します。 ▪ わたしは 友だち□ 会います。 ▪ 母は コーヒー□ 飲みます。 ▪ わたしは すいえい□ 上手です。 ③ 学生は相談しながら、□に入る格助詞が同じものに分類する。 ④ 教師は正答を公開する。 「が格」 ▪ わたしは りんご□ 好きです。 ▪ わたしは すいえい□ 上手です。 「を格」 ▪ おとうとは ゲーム□ します。 ▪ 母は コーヒー□ 飲みます。 「に格」 ▪ みきちゃんは バス□ のります。 ▪ わたしは 友だち□ 会います。 ⑤ 各格助詞の意味用法をペアで推測してみる。 ⑥ 教師はペアで十分な話ができたと思ったら、学生たちに推測してみた意味用法を聞いてみる。 ⑦ 最後に教師が格助詞の意味用法についてまとめる。
注 意 点	教師は学生たちを見回りながら、難しがる学生にはヒントをあげる。

(2) 方法2

方 法 名	格助詞を使って文章作り
提示順序	4課(六つぐらいの格助詞の学習ができた時)、 9課(十分に格助詞の学習ができた後)
目　　的	今まで学習した格助詞で文章を作ったり、友達の作った文を聞いて確認したりしながら、格助詞の学習ができる。
方　　法	① 3～4人がチームになる。 ② 教師は今まで習った格助詞が書かれたさいころをあげる。 **<さいころの例>**  ③ 一人ずつさいころを投げる。 ④ 投げた結果、さいころに書いてある格助詞で簡単な文を作る。 （例）<u>から格</u> 私は日本**<u>から</u>**きました。 ⑤ 他の学生は聞きながら、正しい文なのか確認する。 ⑥ 一番文章をたくさん作った学生には補償する。
注 意 点	ゲームのように楽しみながら、格助詞の学習ができるように雰囲気を作る。

(3) 方法

方 法 名	格助詞スピードクイズ
提示順序	4課(六つぐらいの格助詞の学習ができた時)、 9課(格助詞の学習ができた後)
目　　的	今まで学習した格助詞をスピードクイズという面白いゲームを通して確認できる。
方　　法	① 二人がペアになる。 ② 一人は前でカードを持ち、一人はカードに入る格助詞を言う。 **<カード例>** ▪ わたしは ピザ□ すきです。 (나는 피자를 좋아합니다.) ▪ 英語□□ 日本語のほうが すきです。 (영어보다 일본어 쪽을 좋아합니다.) ▪ アメリカへ 飛行機□ 行きます。 (미국에 비행기로 갑니다.) ▪ 1時から 5時□□ 寝ます。 (1시부터 5시까지 잡니다.) ③ 1分の制限時間にたくさん言うチームが勝つ。
注 意 点	短い時間に行わなければならないので、カードに韓国語の翻訳も書いておく。

Ⅲ. 結 論

本研究では「2009改訂教育課程」の日本語の格助詞教育について分析してみた。研究者は学校現場で働いているので、学生が日本語文法において難しがる部分をよく知っている。特に、格助詞は韓国語にも存在する文法要素でありながら、似ている用法が多いので、学習者が間違いやすい。また、今日の第2外国語教育課程ではコミュニケーション能力を重視しているので、文法教育は文型の中で行われている。従って、日本語の流暢さは向上させるが、正確さにとっては足りない部分があるので、若干不自然な日本語になってしまう。このような背景に基づいて、日本語の格助詞の文法教育を通して、コミュニケーション能力の流暢さと文法項目の正確さを同時に向上させられる方法に関する研究を行った。

それに、2009改訂の「第2外国語教育課程」、日本語の格助詞教育などについての先行研究はまだ行われたことがない。このような状況の中で現在の日本語文法教育を振り替えてみて、コミュニケーションだけを重視して文法教育を再考するのに本研究は意味が深い。

まず、格助詞を「2009改訂教育課程」に合わせて分析してみた。文法項目の中でも格助詞に関する分析をしようと決めたのは、簡単な文法のように見えるが、実際の使用においては誤用が多いので分析の対象にした。特に、「2009改訂教育課程」の「文法」の部分では変化があった。この点はコミュニケーションを重視している現在の教育課程では重要な示唆点である。従って、格助詞の「が・を・に・へ・と・で・から・より・まで」の意味用法を例文を通して分析してみた。

9種類の格助詞の「が・を・に・へ・と・で・から・より・まで」が高校の日本語教科書でどのように使われているのかを意味用法、提示順序、指導方法、格助詞に関する練習問題を通して分析してみた。2007改訂の高校の日本語教科書を「2009改訂教育課程」の内容と比べながら、2014年に出版される2009改訂の高校の日本語教科書の格助詞教育が改善される点を提言した。

従って、6種類の教科書の中の「が・を・に・へ・と・で・から・より・まで」の9種類の格助詞について分析した結果、まず、9種類の格助詞は大体に提示され、コ

ミュニケーション能力の向上を重視しているので、提示順序においては各課での重要文型を中心に格助詞が提示された。つまり、格助詞の重要度や難しい程度によって、提示するのではなく、どのような文型が提示されたかによって格助詞を学習させる。これは流暢さのためにはいい方法であるが、格助詞の重要度も考慮しながら、格助詞を提示するのもいいだろう。

次に、指導方法は「まとめ」の部分で簡単に整理した。格助詞に関する練習問題も各教科書に一つから四つの問題に構成され、数が思ったより多くなかった。多くの教科書は「まとめ」さえでも整理していない。格助詞だけを扱う練習問題を提示するのに限界があるとしたら、他の文法要素を聞きながら、格助詞まで聞く複合的な問題を提示することもいいだろう。それなら、格助詞の学習までも自然に行うことになる。

最後に、格助詞の新しい教育方法を研究者が提案してみた。「似ている意味用法の格助詞の分類」、「さいころゲームを通して格助詞を入れた文章作り」、「格助詞スピードクイズ」のような指導方法である。このような方法は格助詞の文法教育を硬くない方法で行い、友達と一緒に活動しながら自然に学習することができる。また、格助詞の正確さとコミュニケーションの能力も一緒に向上させられる。

つまり、「2009改訂教育課程」を適用する新しい高校の日本語教科書は、文法教育を強調するが、コミュニケーション能力も一緒に向上させる方向になってほしい。学生の積極的な態度を強調するので、本研究で提案したように楽しいゲームや色々な活動を通して学べるように指導方法を開発するのが必要である。従って、流暢性と共に正確性も備える日本語学習者になろうとする努力も要求される。

2014年からは新しい2009改訂の高校の日本語教科書が出版される予定である。現在までの日本語教育の方向は維持しながらも、自然な日本語、日本語らしい日本語のための格助詞の教育に変わってほしい。最後に2009改訂の高校の日本語教科書が出版された後、教科書の中の格助詞の分析に関しては今後の課題としたい。

参考文献

＜日本語文献＞

佐藤喜代治(1977)『国語研究事典』明治書院、pp.125-127、pp.161-163、p.307

国語学会(1980)『国語学大辞典』東京堂出版、pp.140-143

益岡隆志・田窪行則(1987)『日本語文法セルフマスターシリーズ3 格助詞』くろしお出版、pp.4-8

金田一春彦・林大・柴田威(1988)『日本語百科大事典』大修館書店、pp.132-149、pp.187-191

北原保雄(1989)『講座 日本語と日本語教育』明治書院、p.75、pp.302-314

益岡隆志(1992)『基礎日本語文法』くろしお出版、pp.49-54、pp.74-83

小泉保(1993)『日本語教師のための言語学入門』大修館書店、pp.114-115、pp.166-167、pp.182-210

山口明穂(2001)『日本語文法大辞典』明治書院、pp.347-348

庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘(2002)『初級者を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク、pp.16-19

社団法人　日本語教育学会(2005)『新版日本語教育事典』大修館書店、pp.92-107、p.99、p.161、p.582

小泉保(2007)『日本語の格と文型-結合価理論にもとづく新提案』大修館書店、pp.21-108

<韓国語文型>

교육과학기술부 2007개정 고등학교 교육과정 해설서-외국어(제2외국어)

교육과학기술부 2009개정 고등학교 교육과정-제2외국어과 교육과정

(주)교학사(2012) 고등학교 〈일본어Ⅰ〉

(주)다락원(2012) 고등학교 〈일본어Ⅰ〉

(주)미래엔(2012) 고등학교 〈일본어Ⅰ〉

(주)지학사(2012) 고등학교 〈일본어Ⅰ〉

천재교과서(2012) 고등학교 〈일본어Ⅰ〉

천재교육(2012) 고등학교 〈일본어Ⅰ〉

西口高一(2000) 『예문으로 익히는 기초 일본어 문법』 동양문고, pp.19-25

김양선(2011) 『한국어 대응을 활용한 전략적 일본어 문법』 영남대학교 출판부, pp.11-39

李種烈(2002)「한・일어 격조사의 대조연구」한남대학교 교육대학원 석사학위논문

金成姬(2003)「日本語助詞誤用例에 관한 考察-第7次 教育課程 - 日本語 教科書에 나오는 格助詞를 중심으로」한국외국어대학교 교육대학원 석사학위논문

裵仁淑(2004)「일본어 격조사의 오용례 분석과 지도방안」계명대학교 교육대학원 석사학위논문

林美璘(2007)「제7차 고등학교『일본어Ⅰ』교과서의 격조사 분석」계명대학교 교육대학원 석사학위논문

전대국(2012)「2009 개정 교육과정 중학교 『생활일본어 』교과서 분석-문화영역 중심으로」경희대학교 교육대학원 석사학위논문

ABSTRACT

A Study on Case Marker in Japanese Textbook :focused on 2009 revised educational curriculum

Geunhye Kim
Department of Japanese Language and Literature
Graduate School of Sungshin Women′s University

2009 revised educational curriculum, which is being implemented for 1st graders of middle school this year, will gradually take its effect on 1st graders of high school in 2014. Although the curriculum does not include a considerable change because of previous revision in 2007, it does have a slight variation in that it grants autonomy on component school and put emphasis on career education and experiential activity. In the same manner, second foreign language education also shares its major direction along with 2007 revised educational curriculum, while suggesting more detailed curriculum and learners′ active participation in language acquisition. In addition, 2009 second foreign language education highlights cultural learning as before, making efforts to deliver latest Japanese culture to Korean students.

Among second language education of 2009 revised educational curriculum, especially Japanese grammar teaching and learning will be discussed in this paper. In foreign language education, grammar has not been considered important for enhancing communication ability. Since the point of communication is to convey meaning rather than accuracy, grammar was taught inductively in Japanese education. However, some cases have been found where a lack of grammar knowledge disturbs natural flow of communication.

Grammar education has been reinforced in 2009 revised educational curriculum. The curriculum adds grammar points, included in 'basal vocabulary list', to learning process and clearly specifies that Japanese education is based on modern Japanese grammar. Especially, case marker is the first learning point in Japanese grammar study. Case marker is a grammatical element that indicates the relationship between noun and predicates. Case marker performs a major role of completing a sentence by connecting each component and thus is able to convey intended meaning.

However, current learners studying Japanese can not fully learn about case marker due to the characteristic of the existing curriculum in which case marker is hardly emphasized. Therefore, learners make ungrammatical sentence by missing needed case marker or using wrong case marker that has similar meaning with their mother tongue(Korean), which eventually impedes natural flow of communication.Furthermore, all the previous studies about Japanese education in 2009 revised educational curriculum and 2007

revised educational curriculum are only related to 'culture'. Any studies on grammar education and case marker has not been conducted in each curriculum. This paper has its significance in this matter as well.

Based on description so far, this paper selects 9 case markers(ga(が) · wo(を) · ni(に) · e(へ) · to(と) · de(で) · kara(から) · yori(より) · made(まで)) from 6 different Japanese textbooks of 2007 revised educational curriculum and categorizes them according to their meaning usage. Learning sequence and teaching methods of those 9 case markers as well as practical quizzes are analyzed in depth in this paper. The purpose of this paper is to give a suggestion on case marker education which needs to be revised and supplemented in 2009 revised high school Japanese textbook, based on 2009 revised second foriegn language educational curriculum.

After detailed analysis, 2007 revised highschool Japanese textbooks are found to be thoroughly organized to enhance communication capability. 9 case markers(ga(が) · wo(を) · ni(に) · e(へ) · to(と) · de(で) · kara(から) · yori(より) · made(まで)), even though being described in all 6 textbooks, are limited to a narrow scope of meaning usage. Particularly, a meaning usage of case marker that has never been suggested is included. In the matter of learning sequence, there is no certain sequence. Case markers are merely described according to the content in each unit. Some explanations or practical test are provided when the given text includes certain case marker and needs simple understanding of it. This leads insufficient learning about case markers. On the basis of 2009

revised educational curriculum, some suggestions for current case marker education can be made like following. Missing case markers should be provided in text book when similar meaning usage is handled and practical text should be newly modified to check complete understanding of case markers.

As mentioned above, analysis on 9 case markers in Japanese text books based on 2009 revised educational curriculum and supplementary suggestions for case marker education are discussed in this paper. New grammar education focused on case marker, rather than interrupting communication capability, will allow learners to have enhanced fluency in Japanese communication.

附　　録

●第2外国語の教育課程

「2009改訂教育課程」の第2外国語パートは「2007改訂教育課程」と比べてみると基本的に枠は変わらない。国際時代にコミュニケーション能力を習得し、相互の文化に対する理解を深める点、情報を活用できる能力の重要性などは同じである。ただ、目次が違い、日本語の使用の実用性を強調し、積極的で具体的に提示している。それでは、「2009改訂教育課程」の順序によって変わった点だけを中心に比較してみる。

(1) 目標

2007改訂教育課程	2009改訂教育課程
1. 성격 -「습득하는데 중점을 둔다」,「기르는데 중점을 둔다」,「신장시키는데 기여한다」와 같은 언어를 사용한다. **2. 목표** **<기본목표>** **<구체적인 목표>** **가. 언어기능** **나. 문화** **다. 태도**	**1. 목표** 2007개정교육과정의 「1.성격」과「2. 목표」의 내용까지 포함된다. -<u>추가된 내용</u> : 외국어 교육의 실용적 목표와 문화적 목표, 교육적 목표를 고르게 달성하기 위해 문화의 상호 이해와 국제 교류에 적극적으로 참가하는 태도를 기르기 위해 다음과 같은 일반 목표를 갖는다. -거의 내용은 같지만, 표현이 다르다. 「습득한다」,「기른다」,「신장시킨다」와 같이 보다 적극적으로 강조했다.

	가. 언어기능 **나. 문화** **다. 태도** -2007교육과정의 <구체적인 목표>의 내용과 동일하다.
[日本語訳] **1. 性格** -「習得するのに重点を置く」、「養うのに重点を置く」、「伸張するのに寄与する」のように勧奨する言葉を使う. **2. 目標** **<基本目標>** **<具体的な目標>** **あ. 言語機能** **い. 文化** **う. 態度**	[日本語訳] **1. 目標** 「目標」の内容には、2007改訂教育過程の「1.性格」と「2.目標」の内容まで含める。 -<u>追加された内容</u>:外国語の教育の実用的な目標、文化的な目標、教育的な目標を達成するため、日常生活に関する易しい日本語を理解して表現できる基礎的なコミュニケーションを養い、文化の相互の理解と国際交流に積極的に参加する態度を育成ために次のような一般目標を持つ。 -内容は大体に同じであるが、表現が違う。「習得する」、「養う」、「伸張させる」ように積極的に強調する。 **あ. 言語機能** **い. 文化** **う. 態度** -「2007改訂教育過程」の<具体的な目標>の内容と同じである。

「2009改訂教育課」では「性格」の内容を「目標」に入れた。「目標」を言語機能・文化・態度に分類し、具体化させて、また言語の4技能(聞き・話し・読み・書き)に分類するのは同じである。<基本目標>、<具体的な目標>に分かれるのではなく、<具体的な目標>だけ述べている。この部分では、内容な同じであるが、言葉遣いにおいて積極的な教育を行われるように変わった。

(2) 成就基準

2007改訂教育課程	2009改訂教育課程
3. 내용 **가. 언어적 내용** **(1) 언어기능** **(가) 듣기** ①짧고 쉬운 일본어를 듣는다. ②간단한 교수용 일본어를 듣고 행동한다. ③인사와 소개 기능과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣는다. ④감사, 사과 등의 배려 및 태도 전달 기능과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣는다. ⑤정보요구와 제공 등 정보 교환 기능과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣는다. ⑥의뢰, 권유, 제안 등의 행위요구 기능과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣는다. ⑦맞장구, 되묻기 등 대화 진행 기능과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣는다.	**2. 성취기준** **가. 언어적 내용** **(1) 언어기능** **(가) 듣기** **①간단한 교실 일본어를 듣고 지시에 따라 행동할 수 있다.** -'よくきいてください、(あとに　ついて)いってください、よんでください、かいてください'등 교실에서 자주 사용되는 지시어를 듣고 이해하여 그에 맞게 대답을 하거나 행동한다. ②인사와 소개 표현과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣고 이에 적절하게 반응할 수 있다. -시각이나 상황에 따른 만남이나 헤어짐의 기본적인 인사표현 -안부, 외출, 방문, 축하 등 다양한 상황에서의 간단한 인사표현 -자기소개, 타인소개, 가족소개 시의 의례적인 표현들 중 기본적인 표현을 이해

	③배려 및 태도의 전달표현과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣고 이에 적절하게 반응한다. -감사나 사과, 칭찬이나 위로 등 -승낙이나 거절, 사양이나 유감 등 ④**<u>의향전달표현과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣고 이에 적절하게 반응한다. (추가)</u>** -희망이나 의지, 의견제시 등 ⑤정보요구나 정보제공표현과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣고 이에 적절하게 반응한다. -장소나 선택, 상태나 형편 등에 관한 정보요구 -목적이나 취향, 능력이나 경험 등에 관한 정보요구 -안내나 추측, 전갈이나 상황 설명 등에 관한 정보제공 ⑥행위 요구 표현과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣고 이에 적절하게 반응한다. -의뢰나 권유, 지시나 금지 등 -조언이나 제안, 허가요구나 경고 등 ⑦대화 진행 표현과 관련된 짧고 쉬운 대화를 듣고 이에 적절하게 반응한다. -대화를 진행함에 있어서 상대방에 말걸기, 화제의 전환 등 -맞장구나 되묻기 ⑧**<u>대화 상대방의 지위나 친밀도에 다른표현의 차이를 듣고 이해한다. (추가)</u>** -**<u>대화 상대방과의 상하관계, 친소관계</u>**

(나) 말하기 ①짧고 쉬운 대화를 한다. **(다) 읽기** **(라) 쓰기**	**등에 다른 표현의 차이를 듣고 이해** **(나) 말하기** ①간단한 교실 일본어를 사용하여 자신의 의사를 표현한다. -(もう いちど)いって ください、わかりましら、よく わかりません 등 ②비언어 행동을 상황에 맞게 사용한다. -얼굴표정이나 손짓, 몸짓 등의 비언어 행동을 상황에 맞게 사용한다. ⑤의향 전달 표현과 관련된 짧고 쉬운 대화를 한다. -희망이나 의지, 의견 제시 등 ⑨대화 상대방의 지위나 친밀도에 따른 표현의 차이를 알고 상대방이 이해할 수 있게 말한다. -대화 상대방과의 상하관계, 친소관계 등 **(다) 읽기** **(라) 쓰기**
[日本語訳] 3. 内容 あ. 言語的な内容 (1) 言語機能 (あ) 聞き ①短く易しい日本語を聞く。 ②簡単な教授用日本語を聞いて行動する。 ③挨拶と紹介の機能と関連した短く易しい対話を聞く。	[日本語訳] 2. 成就基準 あ. 言語的な内容 (1) 言語機能 (あ) 聞き ①簡単な教室日本語を聞いて指示によって行動できる。 －‘よくきいてください、(あとについて)いってください、よんでください、かいてく

④感謝、謝罪などの配慮・態度伝達の機能と関連した短く易しい対話を聞く。 ⑤情報要求と提供など情報交換機能に関する短く易しい対話を聞く。 ⑥依頼、勧誘、提案などの行為要求機能に関する易しい対話を聞く。 ⑦相づち、聞き返えしなど対話の進行機能と関する短く易しい対話を聞く。	ださい’などの指示を聞いて、それによって答えをしたり、行動をする。 ②挨拶と紹介の表現と関連する短くて易しい対話を聞いて、これに適切に反応する。 -出会い、別れ -安否、外出、訪問、祝いなどの様々な状況 -自己紹介、他人紹介、家族紹介 ③配慮および態度の伝達表現と関連する短くて易しい対話を聞いて、これに適切に反応する -感謝、謝罪、賞賛、慰労 -承諾、断り、辞譲、残念 ④意向の伝達表現と関連する短く易しい対話を聞いて、これに適切に反応する。 -希望、意志、意見の提示 ⑤情報要求と情報提供の表現と関連する短く易しい対話を聞いて、これに適切に反応する。 ⑥行為の要求と関連する短く易しい対話を聞いて、これに適切に反応する。 -依頼、勧誘、指示、禁止 -助言、提案、許可要求、警告 ⑦対話の進行表現と関連する短く易しい対話を聞いて、これに適切に反応できる。 -相づち、聞き返し

	⑧対話の相手の地位や親密度による表現の差を聞いて理解する。
(い) 話し ①短く易しい対話をする。	**(い) 話し** ①簡単な教室日本語を使って、自分の意志を表現する。 ②非言語行動を状況に適合に使う。 ⑤意向の伝達と関連する短く易しい対話をする。 ⑨対話の相手の地位や親密度による表現の差が分かり、相手が理解できるように話す。
(う) 読み **(え) 書き**	**(う) 読み** **(え) 書き**

「成就基準」というのが「2009改訂教育課程」で一番大きく変わった点である。学生の目標までの達成程度を点数に数量化させなく、一定な水準まで到達ができたら、A-B-C-D-Fのように成就基準を付与する。以前は単純な行為だけ提示したが、「2009改訂教育課程」は学習者を能動的な主体と思い、言語の4技能をよく連携して状況によって相互行為ができるように表す。

特に、「聞き」の部分で多く変わった。まず、学習者を中心にして「教室日本語」を使い、「可能刑」を述べている。そして、単なる「聞き」ではなく、これによって「適切に反応する」というのも加えて、より積極的な学生相を提示した。そして、具体的に各項目に対して説明して理解しやすい。

言語の4技能の内容で全体的に追加された内容がある。自分の意志を積極的に日本語で表すことができることばかりでなく、非言語文化の内容が加えて、状況を判断する認知力を養い、状況に合う日本語の駆使能力まで必要である。特に、相手の位置

や親密度による表現の差まで注意するのは社会言語学とも関連する。

2007改訂教育課程	2009改訂教育課程
(2) 언어재료 **(가) 발음 및 문자** **(나) 어휘** **(다) 문법** **【별표1】에 제시된 '의사소통 기본 표현'에 사용된 문법 사항을 참고한다.**	**(2) 언어재료** **(가) 발음 및 문자** **(나) 어휘** **(다) 문법** **① 【별표II】에 제시된 '기본어휘표'와 【별표I】에 제 시된 '의사소통 기본표현'에 사용된 문법 사항을 참고한다.** **②일본어 교육에서 사용되는 현대 일본어문법을 따른다. (추가)**
[日本語訳] (2) 言語材料 (あ) 発音および文字 (い) 語彙 (う) 文法 【別表1】に提示された'コミュニケーション基本表現'に使う文法事項を参考する。	[日本語訳] (2) 言語材料 (あ) 発音および文字 (い) 語彙 (う) 文法 ① 【別表2】に提示された'基本語彙表'と【別表1】に提示された'コミュニケーション基本表現'に使う文法事項を参考する。 ②日本語教育で使われる現代日本語文法による。(追加)

言語材料では唯一に「文法」でだけ、改訂された。'コミュニケーション基本表現'だけでなく、'基本語彙表'の文法的な面までも学習する必要があると言っている。そして、日本語教育で使われる現代日本語文法に範囲を明確に限定している。

2007改訂教育課程	2009改訂教育課程
(라) 의사소통 기본표현 ①인사: 만남, 헤어짐, 안부, 외출, 귀가,방문, 식사, 연말, 신년, 축하 ②소개: 자기소개, 가족소개, 타인소개 ③배려 및 태도 전달: 감사, 사과, 칭찬, 격려·위로, 승낙·동의, 거절, 사양, 겸손·양보, 의지, 희망, 유감, 정정 ④정보교환: 정보요구, 정보제공, 판단·추측,상황설명, 이유설명, 의견제시, 비교·대비, 선택, 확인 ⑤행위요구: 의뢰, 권유·제안, 조언, 허가요구, 의무, 금지, 경고 ⑥대화진행: 말 걸기, 화제전환, 맞장구, 되묻기	**(라) 의사소통 기본표현** ①인사 ②소개 ③배려 및 태도 전달: **고충·불만(추가),양보, 의지, 정정(삭제)** ④**의향전달: 희망, 의지, 의견제시(추가)** ⑤**정보요구: 존재, 장소, 시간·때, 선택, 비교, 이유, 방법, 상태, 형편·사정, 목적, 취향, 능력·가능, 경험, 확인(추가)** ⑥**정보제공: 안내, 추측, 전갈, 상황 설명(추가)** ⑦행위요구: **지시(추가), 의무(삭제)** ⑧대화진행: **머뭇거림(추가)**
[日本語訳] (え)コミュニケーション基本表現 ①挨拶 :出会い、別れ、安否、外出、帰家、訪問、食事、年末、信念お祝い ②紹介 :自己紹介、家族紹介、他人紹介 ③配慮および態度の伝達 :感謝、謝罪、賞賛、激励・慰労、承諾・同意、断り、辞譲、謙遜・譲歩、希望、残念、訂正 ④情報交換	[日本語訳] (え)コミュニケーション基本表現 ①挨拶 ②紹介 ③配慮および態度の伝達 : 苦衷と不平(追加)、譲歩・意志・訂正(削除) ④意向伝達 : 希望、意志、意見提示 ⑤情報要求 :存在、場所、時間、選択、比較、理由、方法、状態、都合・

:情報要求、情報提供、判断・推測、状況説明、理由説明、意見提示、比較・対比、選択、確認 **⑤行為要求** :依頼、勧誘・提案、助言、許可、要求、義務、禁止、警告 **⑥対話進行** : 話しかけ、話題転換、相づち、聞き返し	事情、目的、趣向、能力、経験、確認 **⑥情報提供** : 案内、推測、伝言、状況の説明 **⑦行為要求** : 指示(追加)、義務(削除) **⑧対話進行** : もじもじすること(追加)

例え、日本語の教科書を作るとしたら、「コミュニケーション基本表現」が一番基本にしているのである。「2009改正教育課程」に新しくできたもの、追加したもの、削除したものなどがある。特に、自分の思いを相手に伝達するのが重要されているので、「意向伝達」という新しい表現の項目ができた。そして、以前は「情報交換」であったが、「情報要求」と「情報提供」に分け、より細分化した。

そして、相手と対話する時に自然に進行できるように、もじもじすることまでも新しく加えた。

2007改訂教育課程	2009改訂教育課程
나. 문화적 내용 (2) 일본인의 일상생활 문화 이해에 도움이 되는 것으로 한다. **(가) 가정생활에 관한 내용** **(나) 학교생활에 관한 내용** **(다) 사회생활에 관한 내용** **(라) 교통 및 통신 매체에 관한 내용** **(마) 의복생활에 관한 내용** **(바) 음식문화에 관한 내용** **(사) 주거문화에 관한 내용**	**나. 문화적 내용** (2) 일본인의 일상생활 문화를 이해하고 **기본적인 의사소통 상황에서 문화적 내용에 맞게 표현한다.(추가)** (가) 가정생활에 관한 내용 (나) 학교생활에 관한 내용 (다) 사회생활에 관한 내용 : **연호(삭제)** (라) 교통 및 통신 매체에 관한 내용 (마) 의복생활에 관한 내용 (바) 음식문화에 관한 내용 (사) 주거문화에 관한 내용

	(아) 환경에 관한 내용 : 자연보호 등 (추가) **(자) 여가선용에 관한 내용 : 여행, 스포츠, 봉사활동 등(추가)** **(차) 위기관리에 관한 내용 : 지진 등 자연재해, 위급 시의 전화번호 등(추가)**
[日本語訳] い. 文化的内容 (2)日本人の日常生活の文化理解に役に立つことにする。 (あ) 家庭生活に関する内容 (い) 学校生活に関する内容 (う) 社会生活に関する内容 (え) 交通および通信に関する内容 (お) 衣服文化に関する内容 (か) 食文化に関する内容 (き) 住居に関する内容	[日本語訳] い. 文化的内容 (2)日本人の日常生活の文化を理解して基本的なコミュニケーションの状況で文化的な内容に合わせて表現する。 (あ) 家庭生活に関する内容 (い) 学校生活に関する内容 (う) 社会に関する内容 : 年号(削除) (え) 交通および通信に関する内容 (お) 衣服文化に関する内容 (か) 食文化に関する内容 (き) 住居に関する内容 (く) 環境に関する内容:自然保護 (追加) (け) 許可専用に関する内容 :旅、スポーツ、ボランティアー(追加) (こ) 危機管理に関する内容 : 自信などの自然際涯、危機の時の電話番号(追加)
(3) 전통문화와 대중문화 중에서 일본인과 일본사회를 이해하는 데 도움이 되는 것으로 한다.	(3) 일본인의 전통문화와 대중문화를 이해하고 **기본적인 의사소통 상황에서 문화적 내용에 맞게 표현한다.(추가)**

(가)지역문화에 관한 내용: 주요지명, 관광명소, 정원 등 (나)연중행사에 관한 내용: 마쓰리, 설, 히나마쓰리, 고이노보리. 오본, 시치고산 등 (다)전통 **예능**에 관한 내용: 다도, 꽃꽂이 등 (라)놀이문화에 관한 내용: 하나미, 하나비 등 (마)대중문화에 관한 내용: 만화, 애니메이션 등	(가)지역문화에 관한 내용: 주요지명, 관광명소, 정원 등 (나)연중행사에 관한 내용: '<u>まつり、おしょうがつ、ひなまつり、おぼん、しちごさん'</u> **<u>등</u>** (다)전통**<u>예술</u>**에 관한 내용: '<u>かぶき、さどう'</u> **<u>등</u>** (라)놀이문화에 관한 내용: '<u>はなみ はなび</u> **<u>등</u>** (마)대중문화에 관한 내용: 만화, 애니메이션 **<u>(바)통과의례에 관한 내용: 생일, 입학 등 (추가)</u>**
[日本語訳] (3)伝統文化と大衆文化の中で日本人と日本社会を理解するのに役に立つことにする。 (あ)地域文化に関する内容:重要な地名、観光名所、庭など (い) 年中行事に関する内容 : 마쓰리, 설, 히나마쓰리, 고이노보리, 오본, 시치고산 등 (う)伝統芸能に関する内容 : 다도, 꽃꽂이 등 (え)遊び文化に関する内容 : 하나미, 하나비 (お)大衆文化に関する内容 : まんが、アニメ	[日本語訳] (3)日本人の伝統文化と大衆文化を理解して、**<u>基本的なコミュニケーション状況で文化的な内容に適合な表現をする</u>**。 (あ)地域文化に関する内容:重要な地名、観光名所、庭など (い)年中行事に関する内容 : **<u>まつり、おしょうがつ、ひなまつり、こいのぼり、おぼん、七五三 など</u>** (う)伝統芸能に関する内容 : **<u>かぶき, いけばな など</u>** (え)遊び文化に関する内容 : **<u>はなみ、はなび</u>** (お)大衆文化に関する内容 : まんが、アニメ (か)<u>通過儀礼に関する内容</u> : <u>誕生日、入学(追加)</u>

(4) 문화적 내용의 구성 **(가) 내용은 실용적인 것으로 하되, <u>최근</u>의 자료를 기준으로 구성한다.**	**(4) 문화적 내용의 구성** **(가) 내용은 실용적인 것으로 하되, <u>최신</u> 자료를 기준으로 구성한다.**
[日本語訳] (4) 文化的な内容の構成 (あ)内容は実用なものにして、<u>最近</u>の材料を基準に構成する。	[日本語訳] (4) 文化的な内容の構成 (あ)内容は実用なものにして、<u>最新</u>の材料を基準に構成する。

文化的な内容では「2009改訂教育課程」で強調しているほど、追加された内容が多い。まず、「最近」ではなく「最新」の材料を扱い、教師は最新の文化に関心を持ち、速く情報を更新して学習者に知らせる。そして、最近、重要な文化に浮かんでいる環境問題・余暇・自然災害に対応する危機管理に関する内容も加えた。また、学習者の年齢を考慮して、密接に接することができる学校の行事やお誕生日などの内容も加えた。

また、以前は日本文化の名称をハングルで提示したが、「2009改訂教育課程」では日本文化の名称も日本語で記入して、日本のものはそのまま接するできるようにした。

2007改訂教育課程	2009改訂教育課程
4. 교수・학습 방법 **가. 일반지침**	**3. 교수・학습 방법** **가. 일반지침** **<u>(1)수업은 가급적 일본어로 진행하도록 한다.(추가)</u>**
[日本語訳] ４．教授・学習の方法	[日本語訳] ３．教授・学習の方法

あ. 一般指針	あ. 一般指針 (1)授業はできれば日本語で進むようにする。(追加)
나. 언어기능 (1) 듣기 (2) 말하기 (3) 읽기 (4) 쓰기	**나. 언어기능** (1) 듣기 (2) 말하기 (3) 읽기 **(라)인터넷의 짧고 쉬운 글을 찾아 읽고 정보를 파악한다.(추가)** (4) 쓰기
[日本語訳] い. 言語機能 (1)聞き (2)話し (3)読み (4)書き	[日本語訳] い. 言語機能 (1)聞き (2)話し (3)読み (え)インターネットで短くて易しい文章を探して読み、情報を把握する。(追加) (4)書き
다. 언어재료 (1) 발음 및 문자 (2) 어휘 (3) 문법 (4) 문화	다. 언어재료 (1) 발음 및 문자 (다) '기본어휘표'에 제시된 한자 중, 학습용한자는 읽고 쓸 수 있도록 하고, 표기용한자는 읽을 수 있도록 한다. (2)어휘 (3)문법 (가) 【별표Ⅰ】에 제시한 '의사소통 기본 표현'

	과 [별표II] 에 제시된 '기본 어휘표에 사용된 문법사항을 참고하여 자연스럽게 익힐 수 있도록 한다. (나)일본어 교육에서 사용되는 현대 일본어 문법을 익힌다. (4)의사소통 기본 표현 (추가)
[日本語訳] う. 言語材料 (1)発音および文字 (2)語彙 (3)文法 (4)文化	[日本語訳] う. 言語材料 (1)発音および文字 （う）'基本語彙表'に提示さらた漢字の中で,学習用の漢字は読んで書けるようにし、表記用の漢字は読めるようにする。 (2)語彙 (3)文法 （あ）【別表１】に提示さらた'コミュニケーション基本表'と【別表２】に提示された'基本語彙表'に使われた文法事項を参考して自然に習うようにする。 （い）日本語教育で使われる現代日本語文法を習う。 (4)コミュニケーション基本表現
·	라. 문화
·	[日本語訳] え. 文化

授業を行う時、教師がよく使う簡単な教室日本語は何回も反復すると自然に学習者も慣れるだろう。学習者がよく分からなさそうでも韓国語の解釈を並行しながらした方が

いい。そして、最近はインターネットのネットワークが発達して、日本のサイトもいつでもどこでも入ることができる。実用性を高めるためにも、教師は易しくて短い文章を探して提供しあげ、興味を引くのも必要である。

文字も‘基本語彙’だけでなく、‘表記用漢字’までは読めるようにし、もっと単語の学習量を広げた。また、言語材料の項目も細分化して、「文化」は別の項目を作り、コミュニケーション基本表現を追加した。

2007改訂教育課程	2009改訂教育課程
5. 평가 **가. 평가지침** **나. 평가방법** **(1) 듣기** **(2) 말하기** **(3) 읽기** **(4) 쓰기** **(5) 문화**	**5. 평가** **가. 평가지침** **나. 평가방법** **(1) 듣기** **(2) 말하기** **(3) 읽기** **(나)<u>학습용한자와 표기용한자가 포함된 짧고 쉬운 글을 읽게 하여 그 능력을 평가 한다. (추가)</u>** **(4) 쓰기** **(5) 문화**
[日本語訳] 5. 評価 あ. 評価指針 い. 評価方法 (1)聞き (2)話し (3)読み (4)書き (5)文化	[日本語訳] 4. 評価 あ. 評価指針 い. 評価方法 (1)聞き (2)話し (3)読み (い)<u>学習用漢字と表記用漢字が含めた短くて易しい文を読ませて、その能力を評価す</u>

	る。(追加) (4)書き (5)文化

評価の内容は大体に以前と同じで、変わったことは別にない。だた一つが追加されたが‘読み’のパートの「漢字」も読めることにして漢字をよく使う日本語に実際的に接するようにした。このように学習者が練習すれば、教科書の中の日本語でなく、リアルな日本語を接する時も慌てないだろう。